整理番号

D－1－1　511

標 題 名

農事試験場特別報告第 29 号　　本邦産鳥類ト農業トノ関係調査成績

著 者 名

発行者名

農商務省農事試験場

発 行 年

大正 2 年（1913 年）

製作年月

2024 年 7 月

欠番

NO.

農事試驗場特別報告

第二十九號

本邦産鳥類ト農業トノ關係調査成績

植物防疫
資料館
図書之印

農商務省農事試驗場

本報ハ本邦産鳥類ト農業トニ關スル調査成績ヲ
登載ス

大正二年一月

農商務省農事試驗場
（東京西ヶ原）

農事試驗場特別報告第二十九號

目次

緒言

第一　鴟類ノ食性　一頁

本邦産鴟類

調査材料

調査成績摘要

もずノ食性

あかもず及ちごもずノ食性

鴟鶲ノ食性

歐米産鴟類ト本邦産鴟類トノ相異

鴟ノはやにわニ就キテ

鴟類各月採餌狀況一覽表

鴟類胃內容調査表

目次

第二　鶫類ノ食性　二十六頁

調査材料

調査成績摘要

鶫類食性一般

各種鶫類ノ食性

鶫類各月採餌狀況一覽表

鶫類胃內容調査表

終

農事試驗場特別報告第二十九號

本邦産鳥類ト農業トノ關係調査成績

囑託員　内田清之助

緒言

鳥類ノ食餌ハ肉食性ノモノ菜食性ノモノ及ヒ此兩者ヲ混食スルモノトアリ是等ノ性質ニヨリ鳥類ハ農業上種々複雜ナル關係ヲ有ス故ニ鳥類ト農業トノ關係ニ就キテハ古來世人ニ注意セラレ鳥類保護ノ慣習及ヒ保護鳥ノ制ノ如キモ古ヨリ存セル所ナリ然ルニ近時科學ノ進歩ニ伴ヒ歐米諸國ニ於テハ鳥類ノ食餌ノ統計的調査行ハレ鳥類カ農業上ニ及ホス利害得失ニ就キ精確ナル知識ヲ得ルニ至リ延イテ狩獵規則制定上確實ナル基礎ヲ與フルニ至レリ

本邦ニ於テハ從來全ク此種ノ調査ヲ缺キ去リトテ歐米ニテ得タル成績ハ直ニ之ヲ本邦産鳥類ニ應用スル能ハサルノ事情アリ蓋シ本邦産鳥類ノ多クハ歐米産ノモノト種類ヲ異ニシ或ハ偶同種類ナルモ四圍ノ狀況ヲ異ニスルヲ以テナリ乃チ本場ニ於テ數年前ヨリ之カ調査ニ著手シ玆ニ先ツ完了シ得タル鴞類及ヒ鶫類ノ食性ニ關スル調査成績ヲ記述スルコトヽセリ

第一　鵙類ノ食性

鵙類ハ其食性複雑ナルヲ以テ農業上ニ及ホス害益ノ程度如何ニ就キテハ從來定說ナシ現行狩獵法ハ單ニ其繁殖期間ニ於テノミ之カ保護ヲ加ヘ其他ノ期間ハ一般獵鳥ト等シク捕殺ヲ禁止セサルモ全ク此類ノ利害得失ニ就キテ疑點アルニ由ル本調査ハ主トシテ本邦産鵙類ニ就キ其農業上ニ與フル利害如何ヲ闡明セントス

本邦産鵙類

(一)もず　(通常鵙)

學名　Lanius bucephalus Temminck et Schlegel.

頭ノ上部ハ鈍キ栗色ニシテ背ヨリ以下尾ニ至ル迄灰色ナリ翼ハ黑褐色ニシテ中央ニ一小白斑ヲ有シ風切羽ハ狹キ黃白緣アリ顔ハ黑色ニ長キ白眉斑アリ下面腮喉及ヒ腹ハ白色其他胸體側等ハ黃褐色ナリ

雌ハ一體ニ雄ヨリモ赤味多ク眼先キ及ヒ耳羽ハ赤褐色(雄ハ黑色)ヲ呈シ下面ハ汚白色ニシテ一面ニ褐色ノ横斑散在ス翼長二寸八九分尾長三寸嘴峰五分五厘

臺灣ヲ除キ樺太ヨリ沖繩ニ至ル迄本邦内到ル所ニ極メテ多ク夏期ハ山中ニテ營巢繁殖シ秋冬ノ候原野ニ出ツ

(二)あかもず　(赤鵙)

學名　Lanius superciliosus Latham.

前種ニ酷似スルモ背ヨリ尾ニ至ル迄頭上ト均シク栗色ニシテ前種ヨリモ濃色ナリ其他眉斑ニ連續シテ前額部モ白色ナルハ前種ト著シキ相違ノ點ナリ

雌ハ雄ニ比シ一般ニ鈍色ナルモ前種ノ如ク下面ニ顯著ナル褐色黃斑ナシ大サ殆ンド前種ニ同シク翼長僅ニ長シ

樺太ヨリ本洲ニ亙リ夏期山地ニ尠カラス冬期ニハ本邦ニ留ルモノ尠ク多クハまらい半島ふるりっぴん、じやば等ノ地ニ越冬ス

(三)ちごもず（兒鵙）

學名　Lanius magnirostris Lesson.

頭上ヨリ上背ニ亙リ灰青色ニシテ其以下ノ背面ハ栗色ニテ尾ヲ除キ他ノ部ニハ凡テ黑色ノ細横斑アリ翼ノ風切ハ黑褐色ニシテ外緣栗色ナリ前額及ヒ顏ハ黑シ下面ハ總テ白色ニシテ體側ハ少シク灰色ヲ帶フ

雌ハ略、雄ト同樣ナルモ一般ニ色稍、鈍シ幼鳥ハ頭部赤味ヲ帶ヒ下面ニ多數ノ黑褐色横斑アリ前種ト略、同大ナルモ嘴稍、太ク尾短シ

本種ハ夏月本島ノ山地ニ營巢スルモ前二種ニ比シ稍、尠シ冬期ハしやむ、まらい半島、すまとら等ノ地方ニ至ル

(四)しまもず（縞鵙）

學名　Lanius lucionensis Linne.

頭上及ヒ後頸ハ灰青色ニシテ背面其以下ノ部分ハ次第ニ赤味ヲ帶ヒ腰上尾筒及ヒ尾ハ栗

色ヲ呈ス前額ハ灰白色ナリ顔ハ黒色ニシテ白色ノ眉斑アリ下面腮及ヒ喉ハ白ク其以下ハ淡黄褐色ヲ帶ヒ少許ノ黒色横斑アリ

雌ハ下面色淡ク顔ハ黒色ナラスシテ褐色ヲ帶フ大サ略〻あかもずニ同シ

本種ハ元來支那ニ多産スル種類ニシテ我國ニテハ僅ニ沖繩及ヒ臺灣ニ見ル臺灣ニテハ四季ヲ通シテ極メテ多キモ沖繩ニハ夏期少數ノ渡來スルモノアルノミ

(五)おほもず (大鵙)

學名 Lanius borealis Vieillol.

背面ハ凡テ灰色ニシテ上尾筒前額及ヒ眉斑ハ白ク顔ハ黒色ナリ翼モ黒色ニシテ一箇ノ白斑ヲ有シ肩羽及ヒ次列風切ハ共ニ狹キ白緣ヲ有ス尾ハ黒色ニシテ中央ノ二枚ヲ除キ先端ニ白色部アリ下面ハ腮ヨリ下尾筒ニ至ル迄總テ白色ナリ

雌ハ雄ニ似ルモ下面稍〻灰色ヲ帶ヒ少許ノ褐色横斑アリ翼長三寸七分尾長三寸三分嘴峰六分アリ

本種ハ主トシテ北亞米利加及ヒ西比利亞、かむちやっか等ニ分布スル種類ニシテ本邦ニテハ北海道及ヒ本洲山岳地方ニ稀ニ見ルノミ

(六)おほからもず (大唐鵙)

學名 Lanius sphenocercus Cabanis.

前種ニ類スルモ一層大形ニシテ上尾筒ハ白色ナラスシテ背ト同シク灰色ナリ其他翼及ヒ尾羽ノ白色部ハ前種ヨリモ多シ翼長四寸尾長四寸八分嘴峰八分アリ

本種ハ東南西比利亞、蒙古、支那、朝鮮等ニ産シ本邦ニテハ嘗テ只一回捕獲セラレシ報告アルモ産否疑ハシ

七）たかさごもず（高砂鵙）

學名　Lanius schach Linne.

頭上ヨリ上背ニ亙リ灰色ニシテ下背以下上尾筒迄赤褐色尾羽及ヒ翼ハ黑色ニシテ赤褐色ノ狹緣ヲ有ス前額及ヒ顏ハ黑色ナリ下面ハ總テ白色ニシテ體側ト下尾筒ハ淡赤褐色ヲ呈ス雌雄同シ翼長三寸四五分尾長四寸六七分嘴峰七分五厘アリ

本種ハ元來支那ノ産ニシテ本邦ニテハ臺灣ニノミ棲息シ同地ニハ尠カラス

調査材料

上述ノ如クおほもず及ヒおほからもずノ二種ハ其數極メテ尠ク又しまもず、たかさごもずノ二種ハ其棲息區域狹少ニシテ農業上ノ關係重要ナラス（但後二種類ハ臺灣ニ於テハ然ラス）爾餘三種類ノミ注意ヲ要スルモノトス就中もずハ其棲息ノ區域殆ト全國ニ亙リ且ツ其數頗ル多シ故ニ調査ノ材料トシテハもずヲ主トシ（一月乃至十二月ニ百十六羽）ちごもず及ヒあかもずハ是等ノ種類ノ「渡リ」ノ關係上最多産スル時期ニ於テ捕獲セルモノヲ用キタリ（前者ハ五月乃至七月ニ五十二羽後者ハ五月乃至十二月ニ六十七羽）尙其他各種ヲ通シテ鷦數十羽ヲ實驗ニ供セリ（實驗セル數ハ尙多數ナレトモ其中胃內容ノ消化既ニ程度ヲ進メテ確實ニ知悉スルヲ得サリシモノハ之ヲ除ク）

調査成績摘要

一 鴟類ノ食餌ハ常態ニ於テハ全然動物性ノモノニシテ只一二月ノ候食餌動物ノ最モ乏シキ際極メテ稀ニ植物性ノモノヲ攝ル

二 鴟類ノ常食ノ大部分ハ昆蟲類ナリ其他ノ動物ハ僅少ニシテ其種類モ亦尠シ

三 鴟類ノ食スル昆蟲類中蝗蟲、椿象、根切蟲、尺蠖、螟蟲等ハ特ニ嗜食スル種類ニシテ是等ハ何レモ農作物ニ對シ加害劇甚ナル種類ナリトス

四 鴟類ノ食スル昆蟲類ハ大部分害蟲ニシテ益蟲ニ屬スル種類ハ極メテ少ク其比ハ約六ニ對シテ一ナリ

五 鴟類ハのねずみ(野鼠)ヲ捕食スルコトアリ

六 歐米產鴟類ハ有益鳥類ヲ捕食スルコト尠カラス爲ニ農業上ニ及ホス利害相殺スルモ本邦產鴟類ハ有益鳥類ヲ捕食スルコト極メテ稀ニシテ其虞アルコトナシ

七 鴟類ハ實際自己カ食餌トスル以外ニ徒ニ昆蟲其他ノ動物ヲ捕殺スル習性アリ而シテ是等ハ多ク害蟲ノ種類ナルヲ以テ鴟類ノ農業上ニ及ホス効果ハ胃內容ノ調查ヨリ得タル結果ヨリモ實際ニ於テハ尙偉大ナルモノアリ

八 鴟類ハ上述ノ如ク農業上有害動物ヲ驅除スル効果多大ナリ故ニ之ヲ絕對保護鳥トシテ捕殺ヲ禁止シ其增殖ヲ計ルヲ可トス

もずノ食性

一 植物性食餌

もずハ植物性食物ヲ攝ルコトハ極メテ稀有ニシテ全數百十六羽中僅ニ三例アルノミ且ツ

其時期ハ一月及ヒ二月ニシテもずノ嗜好スル食餌動物ノ最モ缺乏セル時ナルヲ以テ植物性食餌ハ決シテ常食ト見做スヘカラス而シテ其食セルモノハ野生ノ灌木及ヒ蔓草ノ果實ニシテ農業上ノ關係甚タ尠ナシ

二　動物性食餌

鳥類　もずノ食餌中最モ注意ヲ要スヘキハ鳥類ニシテ(歐米產鵙類ト本邦產鵙類ノ項參照)別表ニ見ル如ク百十六羽中一月及ヒ二月ニ僅ニ四羽アルノミ卽チもずハ他ノ食物ノ最モ乏シキ時期ニ於テノミ稀ニ他鳥ヲ捕食スルモノナルヲ知ル但シもずカ他ノ小禽ヲ襲撃スルハ屢〻人ノ目撃スル所ナルモ多クノ場合實際捕食スルモノニアラス又上述ノ四例中二羽ハ種類不明ナルモ他ノ二羽ハ穀食鳥類ナルコトハ胃ノ內容ニヨリテ明ナリ故ニもずハ他ノ鳥類ヲ捕食スルコト稀ナルノミナラス其種類モ亦餘リ有益ナラサルモノト云フヲ得ヘシ

鼠　調査セシもず百十六羽中鼠ノ捕食セラレシモノ六頭ニシテ凡テ農業上最モ有害ナルのねずみ(Microtus montebelli M. Edw.)ナリ其數僅少ナリト雖モ終年之ヲ捕食スルカ故ニのねずみハもずノ常食ト稱スルコトヲ得ヘシ

其他ノ脊椎動物　蛙ハ全數中九頭ニシテ殆ント終年ノ常食ナリ又とかげハ只一頭ノ食セルノミ是等ノ動物ハ小昆蟲ヲ食トスル有益動物ナルヲ以テ此點ニ於テもずハ多少有害ナリトス

之ヲ要スルニもずノ食スル脊椎動物ハ極メテ少數ニシテ餘リ重要ナラス次ニもず食餌ノ大部分ヲ占ムル昆蟲類ヲ記述セン

昆蟲類　もずノ主食ハ昆蟲類ニシテ其種類極メテ多ク廣ク昆蟲ノ各目ニ屬ス卽チ膜翅目、蠍蟲目、鞘翅目、直翅目、有吻目、蜻蛉目、雙翅目、鱗目、毛翅目等ニ亙レリ

鞘翅目、最モ多ク捕食セラルヽモノニシテ其種類甚タ多シ此目ノ昆蟲類ニハ農業上有害ナルモノト有益ナルモノトアリ今之ヲ害益ノ區別ニ從テ分テハ全數二百八十七頭中害蟲ハ二百二十九頭ニシテ益蟲ハ五十八頭ナリ而シテ害蟲ノ內ニテハ被害多大ナル象鼻蟲科、金龜子科、叩頭蟲科ノ成蟲及ヒ幼蟲最モ多ク益蟲ハ殆ンド步行蟲科ノモノナリ此科ノ昆蟲ハ頗ル普通ニシテ食蟲鳥類ハ概ネ之ヲ食セサルモノナシ

直翅目　此目ニ屬スルモノニアリテハ螽蟖科、蟋蟀科、竹節蟲科及ヒ蟷螂科ノモノ捕食セラレ其大部分卽チ總數五十七頭中四十四頭ハ螽蟖科ノ昆蟲ニシテ益蟲ニ屬スルハ單ニ蟷螂科ノモノ一頭アリシノミ

此外もずハ蝗蟲卵ヲ食スルコトアルハ注意スヘキモノナリ

鱗翅目　此目ニ屬スル昆蟲ノもずニ捕食セラルヽハ凡テ幼蟲ニシテ有害蟲最モ多キヲ見ル卽チねきりむし、よたうむし、しやくとりむし、めいちゆう（主トシテ二化螟蟲）其多數ヲ占ム總數百三十三頭中九十六頭アリ他ノ三十七頭ハ諸種ノ蛞蝓、鳥蠋等ナリ

有吻目　總テ害蟲ニシテ椿象科、蟬科、紅娘華科ノ三科捕食セラル此內比較的多キハ椿象ナリトス椿象ハ惡臭ヲ有スルモもずハ敢テ之ヲ嫌忌スルコトナキカ如シ蟬ハ他種ノ鵙類ハ好ンテ捕食スレトモもずニテハ僅ニ五月六月ニ於テ七頭ヲ算セシノミ

要スルニもずノ好ンテ捕食スル昆蟲ハ主トシテ以上ノ四目ニ屬スルモノニシテ其他あり、

はち、しりあげむし、とんぼ、はなあぶ等アルモ其數僅少ナリ

其他ノ動物　脊椎動物及ヒ昆蟲類以外ノ動物ニシテもずニ捕食サルヽモノハ多足類及ヒ蜘蛛類ナリトス前者ハ其數多カラス且ツ農業上著シキ利害ナキモノナレトモ蜘蛛類ハ昆蟲ノ少キ場合ニハ稍、多ク捕食セラレ總數百十六羽ノ胃中三十八頭ヲ算ス蜘蛛類ハ概シテ各期食蟲鳥類ニ捕食セラルヽコト多ク昆蟲以外ノ動物中稍、主要ナルモノナレトモ蜘蛛類ノ價値ハ昆蟲類ノ如ク明ナラス從來一般ニ有益動物ト見做サルレトモ今後尚此種ノ問題ヲ詳細ニ調査シ置クコトハ鳥類食性研究上必要ナルコトナリトス

あかもず及ちごもずノ食性

調査ニ用キタルあかもずハ五月ヨリ十二月ニ至ル八箇月間ニ六十七羽ちごもずハ五、六、七ノ三箇月間ニ五十二羽ニシテ其結果ハ別表ニ示スカ如シ是ニ由テ觀レハ大體ニ於テ兩種共ニもずト同樣ニシテ其主食トスル所ハ鞘翅目、直翅目、有吻目、鱗翅目等ノ昆蟲類ナリ只此兩種ニ特異ナルハ有吻目ノ蟬類ヲ捕食スルコト甚タ多キニアリ其他此兩種ハ鳥類ヲ捕食スルコト皆無ナリ是ハ此種ノ內地ニ棲息スル時期カ主トシテ夏期ニシテ酷寒ノ候卽チ最モ昆蟲類ニ乏シキ候ニハ多クハ本邦以南ノ地ニ移去スルカ爲ナルヘシ

鵙鶲ノ食性

胃內容ヲ調査セル鶲鵙ノ數ハ僅少ニシテもず八羽あかもず十八羽ちごもず八羽ニ過キスト雖モ大體ニ於テ鶲ト成鳥トノ食餌ヲ推知スルヲ得ヘシ別表ノ如ク鶲ノ食餌ハ略、成鳥ノモノト異ナラス會、多少或ル種類ノ增減アルハ成鳥ハ多ク長日月ニ亙リテ調査セルモ鶲ハ一定

ノ時期ノミナルヲ以テ時期ノ相違ニヨリ食餌動物ノ發生ニ差異アルカ爲ナリ雜食性又ハ草食性鳥類ニアリテハ成鳥ト鶵トノ食物全ク異ナルモ肉食鳥類ニテハ異ナル所ナキハ當然ナリ又歐米ニ於テ鶵鵙ハ主トシテ他ノ鳥類ヲ以テ養ハルヽモノト信スルモノアルモ(實際根據アル調査ニ基ケル說ニ非ス)此調査成績ニテハもずニ一回あかもずニ一回ちごもずニ鳥卵ヲ食セルモノ一回アルニ過キスシテ本邦ノ鵙ニ於テハ其事實ヲ認メ難シ

歐米產鵙類ト本邦產鵙類トノ相異

鵙類ノ食餌中最大部分ヲ占ムルモノハ昆蟲類特ニ害蟲ニシテ此點ニ於テ鵙類ノ益鳥タルコトハ萬人ノ均シク認ムル所ナルカ只他ノ鳥類ヲ捕食スルコトアルカ爲メ從來鵙類ノ害益ニ就キ疑問タリシ點ナリ本調査ノ結果ハ上述ノ如ク殆ント其害ヲ認メ難シ今本調査ノ成績ニ從來歐米產鵙ニ就キテ行ハレシ成績(E. Csiki : Positive Daten über die Nahrung unserer Vögel. Aquila, Bd. XI, P. 14—24,1904; Sylvester Judd : The Food of shrikes., U. S. Dept. Agr. Bul. No. 9,1898.)トヲ比較表示スレハ

鵙ノ種類	剖檢セル鵙ノ總數	鳥ヲ食セシ鵙ノ數	總數ト鳥ヲ食セシモノノ百分率	鵙ノ翼長	產地
Lanius borealis (おほもず)	六七	二八	四二%	三寸八分	北米、かむちやつか、西比利亞稀ニ本邦
L. excubitor	三五	五	一四	三寸八分	歐羅巴及西部西比利亞
L. ludovicianus	八八	七	八	三寸二三分	北米
L. bucephalus (もず)	一一六	四	三	二寸八九分	本邦及支那
L. supercilissus	六七	○	○	二寸九分	本邦、馬來、ふるりつぴん

L. magnirostris（ちごもず）	五二	○	○	二寸八九分	東部西比利亞、支那、本邦、しやむ、馬來、すまとら
L. minor	三七	○	○	三寸	歐羅巴、西部亞細亞、北亞弗利加

是ニ由テ知ル本邦ニ多ク棲息スル鵙類ハ歐米ニ多キ鵙類ニ比シ他ノ鳥類ヲ捕食スルコト極メテ少ク從テ農業上ノ被害絶無ナルコトヲ、此理由ハ恐ラク鵙類ノ大サノ相違ニ基因スルモノニシテ前表ニ見ル如ク鵙類カ他鳥ヲ捕食スル度ハ略、體ノ大小ニ正比例ス卽チ小形ノ鵙類ハ全ク無害有益ニシテ大形ノ鵙類ハ多少ノ害ヲ伴フヲ免カレス

臺灣ニハ二種ノ鵙類ヲ產ス一ハ沖繩ニ見ルしまもずニシテ一ハ同島固有ノたかさごもずナリ前者ハ大サ略、もずニ等シク後者ハ體形頗ル大ナリ本調查ニハ該鳥ノ材料得難カリシ爲メ之ヲ剖驗スルヲ得サリシモ同島ニ於テハ普通ニ見ルモノナレハ特ニ注意セラレンコトヲ望ム

鵙ノはやにえニ就キテ

以上述タル所ハ主トシテ胃內容ノ調查ニ基ケルモノナルカ鵙類ノ經濟的價値ヲ定ムルニ當リ所謂鵙ノはやにえハ一考ヲ要スルモノナリ鵙ノはやにえトハ世人ノ熟知スルカ如ク鵙類ニヨリテ樹枝ノ尖端ニ刺シ置カルヽ諸種ノ動物ノ遺骸ニシテ鵙類カ何故ニ斯ノ如キ行爲ヲナスモノカニ就キテハ古來種々ノ想像說アレトモ實際ハ鵙類ハ他ノ肉食性動物ト同シク自己ノ必要ナル以外ニ諸生物ヲ濫殺スル習性アルモノニシテ是等ノ犧性ハ凡テ此はやにえトシテ所在ノ樹枝上ニ磔セラルヽモノナリ（鵙ハ他ノ蟲類ヲ捕獲シ之ヲ食スル際ハ一度枝頭ニ刺シ後之ヲ啄食スル性アリ故ニ啄食中何等カノ障害ニヨリテ之ヲ棄去ルノ機會尠カラス

是レ亦はやにわノ原因タルコト勿論ナリ）

鵙ノはやにわハ諸種ノ害蟲ヨリ成リ其大部分ハ蝗蟲科ノ昆蟲ナリ故ニ鵙類ハ其生活ニ必要ナル爲メ害蟲驅除ヲナス以外尚ホ是等ノ奇習ノ爲メ常ニ勘カラサル害蟲ヲ捕殺シツヽアルモノナリ

鵙ノはやにわトシテ從來知リ得タル動物ノ種類次ノ如シ

かはほり、しまどぜう、かへる、とかげ

とびなゝふし、かまきり、はらびろかまきり、いなご、ばった、つちいなご、おんぶばった、しやうりやうばった、こほろぎ、ぞんまこほろぎ、うまおひむし、けら、あしながばち、べつかふばへ、せみ、つちはんめう、うしむし幼蟲、

鱗翅目幼蟲

みゝず

右ノ内いなご、ばった、こほろぎ、けら等ノ直翅目昆蟲ノ數他ニ比シ甚シク多シ

鵙類各月採餌狀況一覽表

第一表　もず

月別 / 食餌	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
調査セル鳥數	二三	二八	六	一	七	八	二	〇	七	二〇	一〇	四	一一六
つちはんめう			一			一							一
はんめう	三												四
ざうむし	二					三	一二		一				一七

ごみむし	六	一四	六		二	二			二	五	一二	一	五〇
しでむし						二							二
たいこうち	一	一											二
がむし	一									一	一		三
みづすまし	一												一
はむし		一	二						一				四
こがれむし		二			一五	一八	三		一				三九
きくすひだまし					一								一
こめつきむし					一	五	一						七
はりがれむし	三												三
ざうむし幼蟲	一七二												一七二
げんごらう幼蟲	二												二
れきりむし	二	二〇				一							二三
しやくとりむし		二五											二五
よたうむし				一	五								六
めいちゆう		三六	三二	二					一				七一
其他鱗翅目幼蟲	五	八	一		一二	一			二	五	二	一	三七
ばつた	七	九	四		一				五	六	七	五	四四
なゝふし											一		一
けら	一	一	三			一				一		一	八
こほろぎ										一	二		三
かまきり												一	一
ばつた卵塊										二	二	一	五
かめむし	一	一七	一			一	一					三	二四
みづかまきり	一												一
こおひむし		二											二
せみ					三	四							七
とんぼ									四	一〇		二	一六
たいこむし	九	五											一四

第二表　もず（鶫）

食餌 ＼ 月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
調査セル鳥類						四羽	四羽						八羽
こがねむし						一	五						六
ごみむし						六	二						八
こめつきむし							三						三
ざうむし							二						二
しやくとりむし							一						一

樹實 ＼ 食餌	はなあぶ	かがんぼ	はへ	きりうぢ	いさごむし	しりあげむし	あり	はち	くも	多足類	とかげ	とり	かへる	のれずみ	合計
一二	二			七					一六	一四			三	二	二九
一七					一			一	二四	一	一	二	三	一	四六
									四				一		五
															一
		二				二		三	一						一五
						二	一	一	一						四
														一	九
													一		一
	二												一		四
			一											一	四
															一
															二

第三表　あかもず

食餌＼月別	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
調査セル鳥數	二八	一六	七	四	○	九	一	二	六七
こがれむし	五二	三	三						五八
こめつきむし	三四	八	七	二					五一
ごみむし	七	三	一			一			一二
ざうむし	一		二						三
かみきりむし									
はんめう	二	一							三
はむし		四							四
ばつた	一					一一	二	二	一六
かまきり						一			一
こほろぎ						四			四
けら	一								一
ばつた卵塊						二	二	二	六
蛾	三	一							四
れきりむし	一								一
よたうむし	二								二

れきりむし									一
鱗翅目蘭					三				三
ばつた									三
けら					五	三			八
多足類					一	一			一
とりのねずみ									

食餌＼月別	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
しやくとりむし									一
めいちゆう									二
其他鱗翅目幼蟲	四	一	一			一			七
せみ	一八	八	四	三		二			三三
かめむし									二
こおひむし	一								一
あぶ		四							四
つのとんぼ	一								一
いさごむし			一						一
しろあり		二九							二九
とんぼ	二					二			四
はち	一五	一		一		一			一八
あり		一四							一四
くも	二			二				一	五
多足類	一								一
かへろ		一					一		二

第四表　あかもず(鶵)

食餌＼月別	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
調査セル鳥類		一四羽	四羽						一八羽
こかれむし		四							四
こめつきむし		三							三
ごみむし		二	二						四
ざうむし		一							一
がむし			一						一

はんめう			一								一
其他甲蟲			二	一							三
ばつた			一一								一一
けら			五	五							一〇
れきりむし			三	一							四
めいちゆう			二	一							三
其他鱗翅目幼蟲			四	一							五
せみ			一								一
とんぼ			二								二
むしひきあぶ			二								二
はち			一四								一四
あり			二								二
くも				一							一
かへる			二	一							三
とり				一							一

第五表　ちごもず

食餌＼月別	五月	六月	七月	合計
調査セル鳥數	八	三四	一〇	五二
こがれむし	六	四		一〇
こめつきむし	一	一四	二	一七
ごみむし	二	九	三	一四
ざうむし		二		二
きくすひだまし		一		一
よたうむし		一		一

第六表　ちごもず(鶵)

食餌＼月別	五月	六月	七月	合計
調査セル鳥數			八	八
こがれむし			一	一
はんめう			二	二
かみきり			二	二
こめつきむし			一	一
ごみむし			一	一
あり			三	三

しやくとりむし	五	五	一〇
れきりむし	一		一
めいちゆう	一七		一七
かめむし	二	一二	一四
せみ	一〇	四八	六八
ばつた		一	三
とんぼ	一	二	三
はばち	二	二	二
はち	二	二	二
あり	二	二	二
く も	一	四	八
へび	一	三	一

胃内容調査

昆蟲ノ名稱ハ初出ノ際和名學名ヲ併記スルモ以後ハ學名ヲ略ス

第一表　もず　（總數百十六羽）

番號	産地	捕獲月日	胃内容
一	信濃	I 三	はりがねむし二、きりうぢ四、ざうむし翅鞘（種名不詳）二
二	赤羽	I 五	ひらたごみむし(Poecilus proceephalus)翅鞘二 ばつた大腿(種名不詳)二、多足類一種（Geophilus sp）二
三	同	I 同	穀食鳥類(種名不詳)一
四	信濃	I 七	きりうぢ三
五	信濃	I 八	れきりむし二
六	同	同 同	のねずみ(Microtus montebelli)頭骨一
七	同	同 九	かへる(骨)一
八	同	同 同	鱗翅目幼蟲一、木實(種名不詳)一一
九	同	同 同	ばつた大腿(種名不詳)一、實一
一〇	同	同 同	はりがねむし一、鱗翅目幼蟲三、ばつた大腿（種名不詳）二、くも一

一一	東京	I 一四	ばつた大腮(種名不詳)二、かへる(骨)
一二	同	同一五	象鼻科蟲(Curculionidæ)幼蟲一七二、多足類(Geophilus sp)一二
一三	同	同一六	たいこうち(Laccotrephes japonensis)一
一四	信濃	同一九	かへる(骨)
一五	東京	同二〇	ひしばつた(Tettix japonicus)翅六、けら(Gryllotarpa africana)前翅一、はなあぶ(Eristalis tenax)一、椿象觸角(種名不詳)一
一六	同	同同	みづかまきり(Ranatra chinensis)一、ひらたごみむし翅鞘四
一七	同	同二一	がむし肢(Hydrophilus cognatus)一、鱗翅目幼蟲一、くも一
一八	同	同二二	さなへとんぼ(Gomphus melampus)幼蟲五、龍蝨科幼蟲二、ごみむし翅鞘(種名不詳)三
一九	信濃	同二三	くも八
二〇	同	同同	穀食鳥類一
二一	東京	同同	はなあぶ一、くも六
二二	同	同二五	みづすまし(Dineutus marginatus)一、とんぼ(Orthetrum sp)幼蟲四
二三	信濃	同二九	のねずみ一
二四	東京	II 二	ごみむし翅鞘(種名不詳)一
二五	信濃	同四	くも一
二六	東京	同同	鳥(骨)
二七	信濃	同五	かめむし(Eurigaster sp)一五、くも一、きばち(Verspa sp)一
二八	同	同一一	しやくとり一一、ねきりむし一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)二、とんぼ(Orthetrum sp)幼蟲一、ごみむし(種名不詳)二
二九	東京	II 一三	こやんまとんぼ(Epophtholmia amphigena)幼蟲一、けら前肢二、くも一
三〇	信濃	同一四	石蠶一、とかけ(Eumeces latiscutatus)一
三一	同	同同	たいこうち一、鳥(骨)
三二	同	同同	にくわめいちゆう(Chilo simplex)一七
三三	同	同一六	にくわめいちゆう九、ごみむし(種名不詳)一
三四	東京	同同	ごみむし翅鞘(種名不詳)六、あまがへる一
三五	信濃	同同	にくわめいちゆう一〇
三六	東京	同二一	ねきりむし八、かめむし(Eurigaster sp)一、蛛蜘一
三七	信濃	同二二	ねきりむし八、かへる(骨)
三八	同	同二三	ねきりむし一、多足類(Geophilus sp)一
三九	同	同同	ねきりむし二、しやくとり二、こおいむし(Appasus japonicus)二
四〇	東京	同同	ねきりむし一、ひしばつた翅二、ごみむし前胸一、くも八
四一	同	同同	ばつた大腮(種名不詳)二
四二	同	同同	のねずみ(臼齒)二、とんぼ(Orthetrum sp)幼蟲一、くも一
四三	赤羽	同同	ひしばつた翅一、きんながごみむし(Pterosticus eucopolaus)三、鱗翅目幼蟲(種名不詳)二、くも一
四四	同	同同	ごみむし(種名不詳)二、とんぼ(Orthetrum sp)幼蟲二、石蠶一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)三、くも一
四五	同	同同	かへる(頭骨)一
四六	同	同同	しやくとり九、ひしばつた二
四七	同	同同	ねきりむし三、ひしばつた肢二、あおごみむし(Chlaenius pallipes)一、しらほしかめむし(Ensarcoris ventralis)一、くも八
四八	同	同同	ばつた大腮(種名不詳)二

四九 赤羽 II 三 しやくとり三、歩行蟲一種(Carabus sp.)(頭)一、ふびづる實? 一七
五〇 同 同同 ばつた大腿(種名不詳)五
五一 同 同同 金花蟲科甲蟲(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一
五二 信濃 III 四 けら三
五三 東京 同 五 椿象科腹節(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、金花蟲科甲蟲(種名不詳)四、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)五
五四 同 同一〇 ひしばつた後肢八、かくる(骨)
五五 同 同一三 金龜子科甲蟲(Aphodius nigrotessatus)二、くも四
五六 信濃 同一七 にくわめいちゆう三二
五七 同 同二〇 せあかこみむし(Carabus tuberculatus) 一、つちはんめら(Meloe coarctatus) 一、くも一
五八 同 IV 二 にくわめいちゆう二
五九 同 V 二四 のれすみ(骨)、かがんぼ翅(種名不詳)四
六〇 同 同同 きくすひだまし(Telephorus luteipennis) 一、はなむぐり(Glyophana pilifera) 一、ようとうむし一、膜翅目翅(種名不詳) 五
六一 同 同同 はなむぐり五
六二 同 同六 せあかおさむし一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一一
六三 同 同元 ひしばつた肢二、歩行蟲科甲蟲破片、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、くも一
六四 同 同三〇 はるぜみ(Terpnosia pryeri)眼四
六五 同 同三一 はるぜみ一、こめつきむし(Melanotus legatus) 一
六六 同 VI 二 はるぜみ一、にははんめう(Cicindela japonica) 一
六七 同 同七 うすもんしりあげむし(Panorpa sinanoensis) 翅四、きあげは(Papilio machaon) 幼蟲一、こめつきむし一、せあかおさむし翅鞘一、ひらたしでむし一種(Silpha sp.) 一、くも一
六八 信濃 VI 七 はなむぐり七
六九 同 同九 こめつきむし一、ねきりむし一、ようとうむし五、かめむし(種名不詳)一
七〇 同 同同 はるぜみ一
七一 同 同同 ひらたしでむし一種(Silpha sp.) 翅鞘一、はるぜみ一、こめつきむし翅鞘二、歩行蟲科甲蟲頭部(種名不詳) 一、膜翅目翅(種名不詳) 二
七二 同 同三 おほとびいろこがれ(Heptophylla picea) 頭二、こめつきむし一
七三 同 同同 けら一、こめつきむし頭一、にはすゞめ(Cicindela japonica) 翅鞘二、象鼻蟲科甲蟲幼蟲(種名不詳)三、あり一種(種名不詳)一
七四 同 VII 一 象鼻蟲科甲蟲(種名不詳)一一
七五 同 同六 こはなむぐり(Ectinohoplia variolosa) 三、あをくさがめ(Nezara antennata) 一、こめつきむし一、のれすみ(頭骨)一
七六 同 IX 四 なつあかれとんぼ(Sympetrum sinense) 翅一、象鼻蟲科甲蟲咽(種名不詳)一、かくる(頭骨)一
七七 同 同一〇 きあげは幼蟲一、歩行蟲科甲蟲(Chlaenius sp.)一
七八 同 同同 はなむぐり一
七九 同 同三 うすばきとんぼ(Pantala flavescens)翅一、ばつた大腿(種名不詳)四
八〇 同 同七 ばつた胸節(種名不詳)一、金花蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳) 二
八一 赤羽 同一〇 ぎんやんま(Anax parthenope)胸節一
八二 同 同同 ぎんやんま腹節一、鱗翅目幼蟲(種名不詳) 一、くびきりばつた(Conocephalus thumbergi) 二

八三	赤羽	X 七	しもふりすゞめ(Psilogramma menephron)幼蟲一、なつあかれ三
八四	信濃	同一〇	のらはなあぶ(Eristalis incisularis)一
八五	同	同一七	こごみむし(Anisodactylus signatus)一
八六	同	同二〇	ばつた大腮(種名不詳)一
八七	同	同同	ゑんまこほろぎ(Gryllodes mitratus)産卵管一、ばつた卵塊(種名不詳)一
八八	同	同同	こがむし(Hydrochares affinis)翅鞘二、こごみむし一
八九	同	同同	なつあかれとんぼ翅二
九〇	同	同二一	くろすゞめが(Hyloicus caligineus)幼蟲一
九一	同	同二四	かはらばつた(Sphingonotus japonuicus)一、雙翅目翅(種名不詳)一
九二	同	同同	くろすゞめ幼蟲一、こごみむし一
九三	赤羽	同二五	なつあかれ一
九四	同	同同	かへる(頭骨)一
九五	同	同同	なつあかれ一、みつかどこほろぎ(Loxoblemmus haanii)一、けら前肢一、歩行蟲科甲蟲頭(種名不詳)一
九六	同	同同	なつあかれ二
九七	同	同同	ばつた大腮(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、なつあかれ一
九八	信濃	同同	ばつた卵塊(種名不詳)一
九九	同	同同	ばつた卵塊(種名不詳)一
一〇〇	同	同二七	のらはなあぶ一、ばつた大腮(種名不詳)二
一〇一	同	同同	ゑんまこほろぎ一
一〇二	同	同二八	くろすゞめが幼蟲一、なつあかれ翅一、ばつた大腮(種名不詳)一
一〇三	同	XI 三	歩行蟲科甲蟲(Poecilus foris)一、こがむし翅鞘一、ばつた大腮(種名不詳)二
一〇四	信濃	XI 三	きちきちばつた(Gelartorhinus esox)一、野鼠一
一〇五	同	同四	天蛾幼蟲(種名不詳)一、ごみむし翅鞘(種名不詳)一
一〇六	同	同七	くびきりばつた(Conocephalus sp)大腮一、同卵塊一
一〇七	同	同同	くびきりばつた二
一〇八	同	同一三	はれながいなご(Oxya verox)一、同卵塊一
一〇九	同	同同	なゝふし(Lonchodes niponensis)一、はれながいなご二
一一〇	同	同一五	かまきり(Tenodera aridifolia)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一
一一一	同	同同	ばつた卵塊(種名不詳)一
一一二	同	同同	ばつた卵塊(種名不詳)二、歩行蟲科翅鞘(種名不詳)二
一一三	同	XII 三	あをかめむし翅鞘一、かめむし(種名不詳)二、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一
一一四	同	同一〇	はれながいなご二、けら前肢一
一一五	同	同同	なつあかれ翅四、はれながいなご大腮二
一一六	同	同同	はれながいなご大腮四、歩行蟲科甲蟲翅鞘一

第二表　もず鶵（總數八羽）

一一七	信濃	VI 三〇	はなむぐり翅鞘二、歩行蟲科甲蟲頭部五、けら前肢一
一一八	同	同同	のれずみ一、けら前肢一、はなむぐり翅鞘二
一一九	同	同同	けら前肢六、鳥(種名不詳)
一二〇	同	同同	鱗翅目繭(種名不詳)三
一二一	同	VII 一	おほとびいろごがれ四、ひしばつた後肢三、やすで體環節
一二二	同	同一三	れきりむし一、けら前肢六、はなむぐり翅鞘一、歩行蟲科甲蟲翅鞘二
一二三	同	同同	こめつきむし翅鞘四、しやくとりむし一

三四 信濃 VII 三 ばつた後肢(種名不詳)二、こめつきむし翅鞘二、象鼻蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)四

第三表　あかもず　(總數六十七羽)

一 信濃 V 三 蛾(種名不詳)二、金龜子科甲蟲(Anomala puficollis?)五、こおろぎ(Appasus japonicus)一、けら(Gryllotarpa africana)前肢一、はるせみ(Terpnosia pryeri)一、れきりむし一、はなむぐり(Glyciphana pilifera)頭六

二 同 同 はるせみ頭三

三 同 同 はなむぐり一、のばち一種(種名不詳)一

四 同 同 はるせみ頭三、叩頭蟲科翅鞘(種名不詳)一

五 同 同 はるせみ一、こめつきむし(Melanotus legatus)一

六 同 同 きまだらはばち(Temthrado varipes)一、同翅四

七 同 同 はるせみ翅一、はなむぐり翅鞘四、步行蟲科甲蟲翅鞘五、とんぼノ一種(Sympetrum sp)翅二

八 同 同 はるせみ三

九 同 同 こめつきむし一、せあかおさむし(Carabus tuberculatus)一

一〇 同 同 こめつきむし翅鞘一四、叩頭蟲科甲蟲(Limonius sp)一、おほとびいろこがね(Heptophylla picea)翅鞘一

一一 同 同 こめつきむし一、よとうむし一、蝶類(Venessa sp)幼蟲一

一二 同 同 金龜子科甲蟲頭(種名不詳)一六、よとうむし一、多足類(Geophilus sp)一、のばち(種名不詳)一

一三 同 同 はなむぐり翅鞘二、こめつきむし翅鞘一、よとうむし一、多足類(Geophilus sp)一、のばち(種名不詳)一

一四 同 同 金龜子科甲蟲(Anomala sp)一、せみ破片

一五 同 同 ひしばった(Tettix japonicus)一、こめつきむし一、金龜子科甲蟲(Phyllopertha orientalis)翅鞘二、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、はるせみ破片

一六 信濃 V 六 鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、はるせみ破片

一七 同 同 おほとびいろこがね翅鞘四、はるせみ破片、くも一

一八 同 同 こめつきむし八、象鼻蟲科甲蟲(種名不詳)一

一九 同 同 金龜子科甲蟲翅鞘一、こめつきむし四、蜂翅(種名不詳)二、くも一

二〇 同 同 こめつきむし二、天牛科甲蟲翅鞘(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一

二一 同 同 はるせみ一、叩頭蟲科甲蟲(Limonius sp)一

二二 同 同 はなむぐり翅鞘四、はるせみ破片、斑蚊科甲蟲(Cicindela sp)肢三

二三 同 同 ぎんやんま(Anax parthenope)一、にはんめう(Cicindela japonica)一

二四 同 同 こめつきむし五、きばねつのとんぼ(Ascalaphus ramburi)一

二五 同 同 はなむぐり翅鞘一、金龜子科甲蟲(Anomala puficollis)一一

二六 同 同 はるせみ一

二七 同 同 こめつきむし一、ひらたこみむし(Poecilus proceps halus)翅鞘一、あり(種名不詳)一

二八 同 同 おほすかしば(Cephonodis hylas)一

二九 同 VI 一 步行蟲科翅鞘(種名不詳)一、あり翅(種名不詳)一

三〇 同 同 しろあり(Termes sp)働蟻二九、步行蟲科翅鞘(種名不詳)一

三一 同 同 はるせみ一、きばち(種名不詳)一

三二 同 同 はるせみ二、あり(種名不詳)一

三三 同 同 こめつきむし一

三四 同 四 はるせみ一

三五 同 同 あり(種名不詳)四、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一

三六	信濃	VI	四
三七	同	同	五
三八	同	同	同
三九	同	同	同
四〇	同	同	六
四一	同	同	同
四二	同	同	八
四三	同	同	一〇
四四	同	同	同
四五	同	VII	三
四六	同	同	五
四七	同	同	六
四八	同	同	同
四九	同	同	三
五〇	同	同	三
五一	同	同	四
五二	同	VIII	三
五三	同	同	五
五四	同	同	同
五五	同	同	同
五六	同	X	五
五七	同	同	二

あり（種名不詳）四
こめつきむし三、はなむぐり一
おほとびいろこがね頭一
はるせみ一
天鼈蛾科蛾（種名不詳）一、こめつきむし二、叩頭蟲科甲蟲（Melanotis amusiatus）四、金花蟲科翅鞘（種名不詳）四、かへる（骨）
歩行蟲科甲蟲翅鞘（種名不詳）一、むしひきあぶ（種名不詳）四
こめつきむし五、おほとびいろこがね一
はるせみ二、斑蜚科甲蟲（Cicindela sp）一
せみ（はるせみ？）破片
こめつきむし五
とびけら幼蟲（種名不詳）一、歩行蟲科甲蟲翅鞘（種名不詳）二
はるせみ二
せみ（はるせみ？）破片、こめつきむし翅鞘四、象鼻蟲科甲蟲翅鞘（種名不詳）一、鱗翅目幼蟲（種名不詳）一、金龜子科甲蟲二
せみ複眼（種名不詳）二
せみ複眼（種名不詳）二、象鼻蟲科翅鞘（種名不詳）一
しやくとりむし一、おほとびいろこがね翅鞘一
せみ複眼（種名不詳）四
めいちゆう二、蜂頭部（種名不詳）一、くも二
せあかおさむし（Carabus tuberculatus）一、こめつきむし二
せみ（種名不詳）破片
ばつた翅（種名不詳）八
うちすゞめ（Sphinx planus）幼蟲一、かまきり

五八	信濃	X	一五
五九	同	同	一七
六〇	同	同	二〇
六一	同	同	三
六二	同	同	同
六三	同	同	六
六四	同	同	同
六五	同	XI	三
六六	同	同	八
六七	同	XII	一八

前肢一
だいみようばつた（Pachytylus peterminatus）二、こみむし翅鞘（Ansolactylus signatus）一、とんぼ翅（種名不詳）一、かへる（頭骨）一
ばつた大腿（種名不詳）二
なつあかね翅二、ばつた胸節（種名不詳）一、蜂頭（種名不詳）一
ばつた卵塊（種名不詳）一
だいみようばつた（Gryllotes mitratus）後肢六、ばつた卵塊（種名不詳）一
だいみようばつた一、ばつた大腿（種名不詳）二、きんつのかめむし二
ゑんまこほろぎ一、ばつた翅（種名不詳）一
だいみようばつた二
ばつた（種名不詳）二
くも一

第四表　あかもず鶫（總數八十羽）

六八	信濃	VI	一八
六九	同	同	同
七〇	同	同	同
七一	同	同	同
七二	同	同	同
七三	同	同	同
七四	同	同	二〇

こみむし一種翅鞘（Chlaenius pallipes）二、鱗翅目幼蟲（種名不詳）一、こめつきむし翅鞘四、ひめきべりこみむし（Chlaenus circumdactus）翅鞘一
こめつきむし腹節一、象鼻蟲科吻（種名不詳）一
むしひきあぶ（Promachus ater）一、膜翅目頭（種名不詳）一、あまがへる一
れきりむし一、はるせみ一、はんめう肢五、膜翅目（種名不詳）四
めいちゆう二、むしひきあぶ一、あり頭部（種名不詳）一
けら一、鱗翅目幼蟲（種名不詳）二

七四	信濃	VI	三〇	れきりむし一、甲蟲肢(種名不詳)九
七五	同	同	同	こしぼそとんぼ(Fonscolombia maclachlani)幼蟲一、おほとびいろこかれ一
七六	同	同	三	けら一
七七	同	同	同	はなむぐり翅鞘一、ばつた大腿(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一
七八	同	同	同	はなむぐり翅鞘一、ばつた大腿(種名不詳)一四
七九	同	同	同	ばつた大腿(種名不詳)六
八〇	同	同	同	れきりむし一、かへる(骨)、はなむぐり　翅鞘破片
八一	同	同	三	けら前肢六
八二	同	同	VII 九	あまがへる一、けら前肢四、くも一
八三	同	同	同	めいちゆう一、歩行蟲科甲蟲(Pterostichus nigrocephalus)一
八四	同	同	三	穀食鳥類骨、鱗翅目幼蟲(種名不詳)、一甲蟲幼蟲(種名不詳)一
八五	同	同	同	とんぼ幼蟲(Orthetrum sp)一、れきりむし一、けら前肢五、がむし翅鞘二、歩行蟲科甲蟲頭部(種名不詳)一

第五表　ちごもず（總數五十二羽）

一	信濃	V	三	はるせみ(Terpnosia pryeri)成蟲一、同幼蟲一、はなむぐり(Glyophana pilifera)一
二	同	同	同	くろさしがめ(Piroter sinicus)一、はなむぐり翅鞘一、はなむぐりもどき(Glyophana argyrosticta)二
三	同	同	同	めいちゆう一七、さびきこり(Lacon binodulus)頭部一、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)一
四	同	同	三	はなむぐり翅鞘一、はるせみ前肢二
五	同	同	二七	はるせみ複眼六、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)一
六	信濃	V	二八	きまだらはばち(Tenthredo varipes)一、はるせみ一
七	同	同	三	はなむぐりもどき翅鞘一、はなむぐり翅鞘二、歩行蟲科甲蟲頭(種名不詳)一
八	同	同	同	あおくさがめ(Nezara antennata)一、はるせみ二
九	同	VI	一	あおくさがめ一、はるせみ一
一〇	同	同	同	こめつきむし(Melanotis legatus)三、きまだらはばち一
一一	同	同	同	はるせみ一
一二	同	同	三	はなむぐり翅鞘五、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)一
一三	同	同	同	きまだらはばち一、しほからとんぼ一(Orthetrum albistylum)一、はるせみ一
一四	同	同	同	はさみかめむし(Acanthesema labiduroides)一、蜂(種名不詳)一、くも一
一五	同	同	三	はるせみ二、くも一
一六	同	同	四	あおかめむし一、同卵一六、はるせみ　破片
一七	同	同	六	はるせみ複眼二
一八	同	同	同	あおくさがめ一、はるせみ複眼八、象鼻蟲吻(種名不詳)一
一九	同	同	同	こめつきむし一、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)
二〇	同	同	同	歩行蟲科甲蟲(Carabus sp)頭部二、はるせみ二
二一	同	同	九	はるせみ二、くも一
二二	同	同	同	はるせみ一
二三	同	同	同	はるせみ三
二四	同	同	同	はるせみ一、こめつきむし一
二五	同	同	同	はるせみ一、よとうむし一
二六	同	同	一〇	はるせみ一、くも一
二七	同	同	同	はるせみ一、くも一

二六	信濃	VI 一〇	しやくとりむし二、はるせみ三
二九	同	同同	はるせみ寝眼一〇
三〇	同	同二	はるせみ頭部二、歩行蟲科甲蟲頭部(種名不詳)一、きくすゐだまし一種(Telephorus japonicus)一
三一	同	同同	しやくとりむし一、はるせみ頭部四、椿象胸節(種名不詳)一
三二	同	同同	あおかあむし一、象鼻蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)二、歩行蟲科甲蟲　鞘(種名不詳)二、叩頭蟲科甲蟲(Melanotis amusitatus)翅鞘四
三三	同	同同	はるせみ頭部三、あおくさがめ胸節一、こめつきむし翅鞘四
三四	同	同同	はるせみ一、しやくとりむし二、叩頭蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)二、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)二
三五	同	同同	はるせみ一、あおくさがめ二
三六	同	同同	はるせみ一、あおくさかめ一、あり(種不名詳)一
三七	同	同同	はるせみ一、こめつきむし翅鞘一、かめむし(種名不詳)破片
三八	同	同同	はるせみ三、こめつきむし一種一、かめむし(種名不詳)破片
三九	同	同同	せあかおさむし翅鞘二、はるせみ破片、あり(種名不詳)一
四〇	同	同三	こめつきむし一
四一	同	同同	はるせみ寝眼二、こめつきむし翅鞘二、あおくさがめ背片一
四三	同	同同	れきりむし一、はなむぐり一、きまるばち(Bombus kalinowskyi)一
四三	同	VII 一	こみむし一種(Chlaenius pallipes)二、こめつきむし一、くも一
四四	同	同同	はるせみ二

第六表　ちごもず鶫(總數八羽)

四五	信濃	VII 一	つくゝぼうし(Cosmopsaltoria opalifera)一
四六	同	同同	つくゝぼうし一
四七	同	同同	つくゝぼうし一
四八	同	同同	せみ破片(種名不詳)一、歩行蟲科甲蟲頭部一、ひしばつた二
四九	同	同七	つくゝぼうし一、くも一
五〇	同	同三五	しやくとりむし五、くも一
五二	同	同二七	はるせみ一、こめつきむし一
五三	同	同同	はるせみ一
五三	信濃	VII 一	はなむぐり一、けら前肢二、くも一
五四	同	同同	みちをしへ(Cicindela chinensis)一、しやくとりむし二、はなあぶ一種(Megaspis zonalis)一
五五	同	同同	はなかみきり(Leptara dimopha)一、狹蝶屬幼蟲一、くも一
五六	同	同同	蛾(種名不詳)三、けら前肢一
五七	同	同同	こめつきむし腹節一、鱗翅目幼蟲(種名不詳)一、歩行蟲科甲蟲翅鞘(種名不詳)一、天牛科甲蟲翅鞘(種名不詳)一
五八	同	同同	けら前肢二
五九	同	同六	鱗翅目幼蟲(種名不詳)二、鳥卵破片
六〇	同	同同	みちをしへ肢二、しやくとりむし一、くも一

第二　鶫類ノ食性

鶫類ハ本邦ニ極メテ多産スル鳥類ニシテ農業上ニ及ホス影響尠カラス且ツ此類ハ甲種狩獵(銃器以外ノ方法ヲ以テスル狩獵)ノ最モ主要ナル獵鳥ニシテ年々各地ニ於テ捕獲セラルヽ數極メテ多大ナリ而シテ本類中ニハ種々ナル關係ヨリシテ保護ヲ加フル種類ト然ラサルモノトアリ茲ニハ鶫類中保護鳥タルト否トヲ問ハス凡テ本邦ニ多産シ農業上影響多カルヘキ種類ニ就キテ其食性調査ノ結果ヲ記述スルコトヽセリ

附記　鶫ノ種類分布(渡リ)繁殖等ノ事項ニ就キテハ農商務省農務局發行「鶫類圖說」ニ詳ナルヲ以テ茲ニハ是等ノ事項ニシテ直接關係アルモノヽミヲ概記セリ詳細ヲ知ラントセハ同書ヲ參照セラルヘシ

調査材料

本邦ニ產スル鶫類ハ十四種類アリ卽チ

保護鳥

一　あかはら(赤腹)×
二　くろつぐみ(黑鶫)×
三　まみじろ(眉白)×
四　とらつぐみ(虎鶫)×
五　おほとらつぐみ(大虎鶫)

非保護鳥

一　つぐみ(鶫)×
二　まみちやじない(眉茶鶫)
三　しろはら(白腹)×
四　はちじようつぐみ(八丈鶫)
五　をがさはらがびてう(小笠原蛾眉鳥)

六　あかこつこ　　六　たいはんつぐみ（臺灣鶫）

七　やくしまあかこつこ

八　からあかはら（唐赤腹）

備考　×印ハ調査セシ種類

以上諸種ノ中おほとらつぐみハ琉球奄美大島ニやくしまあかこつこハ屋久島ニおがさはらがびてうハ小笠原ニたいわんつぐみハ臺灣ニノミ限リテ棲息シはちじようつぐみ及ヒからあかはらハ稍廣ク分布スルモ其數極メテ尠ク從テ農業上ニ及ホス影響甚タ少ケレハ之ヲ省略スルコト、セリあかこつこハ伊豆七島ニノミ產スルモノニシテ同地方ニ於テハ其農作物ニ及ホス影響尠カラスト云フモ材料ヲ得ルノ便ヲ缺キタレハ他日ヲ俟ツテ調査スルコトアルヘシ尚まみちやじないハ材料得難ク調査ノ必要アル種類ナルモ之ヲ省クノ已ムヲ得サルハ頗ル遺憾トスル所ナリキ

鶫類ハ本邦ニテ營巢繁殖スル種類ト本邦ニハ渡來スルモ其繁殖營巢ハ他地方ニテ營ム種類トアリ而シテ後者ノ中ニモ其渡來ノ時期ニ遲速アルヲ以テ從テ此調査ニ用キタルモノモ各種一年間ヲ通セス調査ノ時期ハ主トシテ該種カ本邦ニ多ク棲息スル時期ト一致ス今左ニ調査セル種類數及時期ヲ記スレハ

つぐみ	十一、十二月及一月ヨリ四月迄ノ六箇月間	二百八十一羽
あかはら	一月ヨリ五月及十、十一月ノ八箇月間	八十羽
まみじろ	五月ヨリ七月迄ノ三箇月間	三十二羽

くろつぐみ　十、十一月ノ二箇月間　五十五羽
とらつぐみ　一月ヨリ五月及十月ヨリ十二月迄ノ五箇月間　三十二羽
しろはら　一月ヨリ三月迄ノ三箇月間　五羽

調査成績摘要

一鶫類ノ食餌ハ春夏ノ候即チ生殖期間ハ動物性ニシテ秋期即チ「渡リ」ノ期間ニハ植物性ナリ冬期ニ至レハ動物性ト植物性トヲ混食シ春期ニ近ツクニ從ヒテ漸次ニ動物性ノモノヲ增加ス

二鶫類ハ「渡リ」ノ期間中ハ食物ヲ攝取スルコト極メテ尠ナシ

三鶫類ノ食スル植物性食餌ハ主トシテ山野ニ野生セル樹木及ヒ灌木ノ果實ニシテ農業上重要ナル影響ナシ

(一)つぐみノ食餌中動植物ノ割合ハ本邦ニ留ル期間ヲ通シ動物質五十九「パーセント」植物質四十一「パーセント」ナリ

(二)動物性食餌ハ主トシテ昆蟲類ニシテ其他ノ種類ハ全動物質ノ六、五「パーセント」ニ過キスシテ其種類モ亦尠ナシ

(三)つぐみノ食スル食物中農業上ニ關係多キハ主トシテ昆蟲ナリ而シテ其大部分ハ害蟲ニシテ益蟲ハ僅ニ其十「パーセント」ニ過キス

(四)つぐみノ最モ嗜好スル昆蟲類ハ鱗翅目ノ幼蟲ニシテ其內ニハしやくとり、よたうむし、ねきりむし、にくわめいちゆう等ノ重要農作物害蟲多シ

(五)つぐみハ上述ノ如ク害蟲驅除上效果尠カラサルモノニシテ且ツ本邦ニ渡來スル數頗ル多キヲ以テ農業上ニ好影響ヲ及ホスコト多大ナリ故ニ本種ニハ霞網獵ノ如キ大々的捕獲ハ可成之ヲ廢止スルヲ可トス

五あかはらノ食性ハつぐみニ極メテ酷似シ然モつぐみニ比シ一層害蟲驅除上ノ效果多シ

六まみじろモ其食性つぐみニ酷似シ而シテ他ノ鶫類ニ比シ食量多ケレハ從テ害蟲驅除上ノ效果モ多大ナリ

七くろつぐみハ食性あかはらト略ゝ同一ナリ

八とらつぐみハ他ノ鶫類ト稍ゝ其食性ヲ異ニシ植物質多シ卽チ植物質五十九「パーセント」ニ對シ動物質四十一「パーセント」ニシテ其食餌ノ種類モ多少異ナレリ

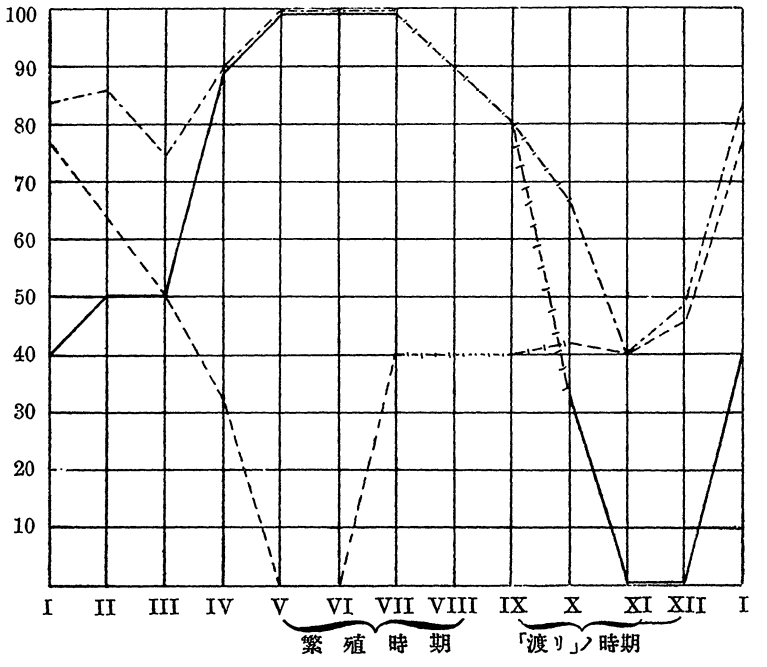
鶫類食性一般

鶫類ノ食餌中植物性ノモノハ多クハ果實ニシテ胃中ニ於テハ果肉消化セラレ種子ノミヲ殘留スルヲ以テ其種類ヲ鑑別スルコト頗ル難ク纔ニ知リ得タル所ノ主ナルモノハねず、へくそかづら、さるとりいばら、のいばら、しほで、あをつゞらふぢ、ひゝらぎ、くは、やまこうばい、ゑびづる等ニシテ何レモ山野ニ自生スル種類ノミナリトス然レトモ植物性食餌ノ多寡ハ農業上重要ナル動物性食餌ノ多寡ニ影響スル所多キニ注意スルヲ要ス左ニ鶫類ハ如何ナル割合ニ動植物性食餌ヲ攝取スルカヲ百分率ヲ以テ示サン

食餌＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	十月	十一月	十二月
動物性食物ヲ含ミシモノ	四〇%	五〇%	五〇%	九〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	三二%	一%	一%

植物性食物ヲ含ミシモノ	七六	六二	五〇	三二	〇	〇	四〇	四二	四〇	四七
全ク食物無カリシモノ	一六	一四	二〇	一〇	〇	〇	〇	三三	六〇	五二

備考　本表ハ主トシテつぐみ調査成績ニヨリつぐみノ本邦ニ棲息セサル期間(五月ヨリ十月迄)ハ他ノ種類即チあかはら、まみじろ、くろつぐみ等ニヨリテ之ヲ補充セリ



卽チ鶫類ノ食餌中動物性ノモノハ繁殖時期卽チ春夏ノ候ニ於テ最モ多クソレヨリ次第ニ減少シ秋期「渡リ」ノ時期ニハ植物ノミニシテ殆ンド動物性食物ヲ攝取スルコトナク「渡リ」終レハ食餌ノ狀況常態ニ復歸スルモ此時期ハ嚴寒ノ候ニシテ昆蟲類ニ乏シキカ爲メ動物質ノ量著シク多カラス次第ニ暖氣加ハリ昆蟲類ノ發生盛ナルニ伴ヒ動物質ノ量ヲ增加シ晩春初夏ノ候最多トナル

植物性食餌ハ年中著シキ增減ナキモ唯一二月ノ候稍〻增加スルハ鶫類ノ嗜好スル昆蟲類ニ乏シキカ爲メニ外ナラス尙玆ニ注意スヘキコトハ鶫類ハ「渡リ」ノ時期ニ於テハ食餌ヲ攝取スルコト極メテ少量ナルコトナリ此時期ニ實驗セル胃ノ約半數ハ全ク空虛ナルヲ認メタリ「渡リ」ハ鳥類ノ凡テノ生活狀態ニ大變動ヲ來ス時期ナルヲ以テ食性ニ斯ノ如キ變化ヲ見ルモ敢テ怪ムニ足ラス

附記　予ハ東濃北陸等鶫ノ名產地方ノ人々カ燒鳥トナセル鶫ノ內臟ヲ好ンテ食スルヲ見テ奇異ニ感セシモ以上調查ノ結果ハ偶然ニモ此事實ヲ解釋セルモノナリ卽チ此地方ニテ捕獲スル時期ハ全ク「渡リ」ノ候ノミナルヲ以テ此時期ノ鳥ノ內臟ニハ全ク食餌ヲ含有セサルカ或ハ少許ノ果實類ヲ含有スルノミニシテ他地方ニテ主ニ捕獲セラルヽ冬期ノ鳥類ノ如ク多クノ動物性食餌ヲ含有スルコトナキカ爲ナリ

鶫類各種ノ食性

(一)つぐみ(鶫)ノ食性

學名　Turdus fuscatus Pallas

本種ハ夏期東部西比利亞、かむちやつか、樺太等ニアリテ繁殖シ十月下旬ヨリ十一月初旬頃日本海ヲ經テ無數群ヲ成シテ本邦ニ渡來シ翌春再ヒ原住地ニ歸ル本邦鶫類中最モ多キ種類ニシテ保護ヲ加ヘラルヽコトナキヲ以テ其「渡リ」ノ際本邦各地ニ於テ霞網ヲ以テ捕獲セラルルモノ頗ル多シ嘗テ予カ鶫獵最モ盛ナル岐阜富山石川ノ三縣下ニテ調査セル所ニヨレハ是等ノ地方ニテ一獵期(主トシテ十一月)ノ獵獲大約百萬羽ニ達ス此外全國諸地方ノモノヲ加フレハ意外ノ大數ニ上ルヘシ然モ此肉ノ利用ニヨリ得ル所ハ僅々數萬圓ニ過キス之ヲ後述スルカ如キ害蟲驅除ニヨリテ間接農業上ニ與フル效果ニ比スレハ極メテ些少ノ利益ト謂ハサルヲ得ス故ニ是等ノ鳥類ハ霞網獵ノ如キ大々的捕獲ハ漸次廢止シ以テ自然的利用法ヲ講スルハ多大ノ利益ナリトス

つぐみハ最モ多ク動物性食餌ヲ捕食スル時期ニハ本邦ニ棲息セサルヲ以テ比較的植物性食餌多ク動物質ト植物質トハ二十三ニ對スル二十一ニシテ略、伯仲ノ間ニアリ而シテ動物質ハ殆ント昆蟲類ニシテ其他ノ動物ハ約六「パーセント」ヲ占ムルニ過キス

昆蟲類中ニテ最モ多食スルハ鱗翅目ニシテ之ニ次キテ鞘翅目、雙翅目、毛翅目、半翅目、膜翅目、直翅目、脈翅目等ノ昆蟲ヲ捕食シ之ヲ害益蟲ノ區別ニ分テハ害蟲九ニ對シ益蟲一ノ割合ナリ

鱗翅目　つぐみノ嗜好スル昆蟲ハ鱗翅目幼蟲ニシテ二百八十一羽中二百二十四頭ヲ算ス然レトモつぐみハ飛翔セル昆蟲ヲ捕食スルコト稀ナルヲ以テ其成蟲ハ殆ント胃中ニ發見スル能ハス此幼蟲ハ消化最モ容易ナルヲ以テ種名ヲ鑑定シ得ル狀態ニテ胃中ニ存スルコト少キモ二百二十四頭中めいちゆう、よたうむし、ねきりむし、しやくとり等農作物ニ被害劇甚ナル

種類九十七頭ヲ確メ得タリ爾餘ノ不明種ト雖恐ラク大多數ハ是等ノ種類ナルヘシ

鞘翅目　鱗翅目ニ次テ多ク捕食セラルヽハ本目ノ昆蟲ニシテ其種類ニ富ミ二百八十一羽ノ胃中ニ發見セラレタルモノ百二十二頭ナリ內害蟲七十一頭益蟲三十一頭害益著シカラサルモノ二十頭ニシテつぐみノ食餌昆蟲中本目ノモノ比較的益蟲多シ

左ニ種名ノ明瞭ナルモノヲ列擧スレハ

ざうむし一種 (Phillobius sp)
こがね一種 (Aphodius nigrotessatus)
ひめみづすまし (Gyrinus japonicus)
こしまげんごらう (Hydaticus grammicus)
みづすまし (Gyrinus curtus)
ごみむし (Anisodactyous signatus)
とびいろこがね (Serica japonica)
げんごらう一種 (Hydaticus sp)
ごみむし一種 (Paecilus procephalus)
ごもくむし一種 (Harpalus rubicollis)
ひめきべりあをごみむし (Chlænius circumdacta)
おとしぶみ一種 (Apoderus roelofsi)
こめつきむし (Melanotis lagatus)

雙翅目　本目ノ昆蟲ハ殆ント害蟲ニシテ總數中八十頭ヲ算ス此中稻作ノ害蟲タルきりうぢかゞんぼ及其幼蟲竝ニみづばへノ幼蟲比較的多キコトハ注意スヘキ點ナリトス

其他ノ昆蟲類　つぐみノ捕食スル昆蟲中特ニ重要ナルモノハ以上ノ三目ニシテ其他ノ諸目中積翅目ニ屬スルかはげら及ヒ毛翅目ノとびけら類ノ幼蟲(いさごむし)ニシテ共ニ農業上大ナル關係ナキ種類ナリ有吻目(半翅目)ニ屬スルモノハ主トシテ有害ナル椿象諸種ニシテつぐみモもずト同シクかめむしノ保護的惡臭ヲ嫌惡スルコトナキカ如シ蜻蛉目ノ昆蟲ハ主ニ

小形雙翅目、小形鱗翅目、小形直翅目等ノ害蟲ヲ捕食スル有益蟲類ナルカ其幼蟲ノ時代ニ於テつぐみニ捕食セラルヽ種類ハさなへとんぼ、こやんとんぼ、おほやんまとんぼ及ヒ蜻蛉亞目ノ不明ナル種類ニシテ總數中二十六頭ヲ算ス直翅目ニ屬スルモノハばつた、いなご、けら等凡テ害蟲ナレトモ其數少ナシ膜翅目ニテハ主トシテ蟻類ノ各種捕食セラレ脈翅目ノモノハ種類不明ニシテ僅ニ總數中三頭ニ過キス

昆蟲以外ノ動物　別表ニ示スカ如ク脊椎動物、軟體動物、節肢動物等廣ク各綱ニ渉リ害益一樣ナラスト雖其捕食セラルヽ數ハ極メテ尠ク常食ト看做スヘカラス從テ農業上ノ影響大ナラス

(二)あかはら(赤腹)ノ食性

學名　Turdus chryolaus Temminck.

本邦各地ノ山野ニ營巢繁殖スル種類ニシテ冬期ニハ其一部ハ本邦以南ノ地ニ渡ルモ大部ハ年中本邦內ニ留マル

あかはらノ食性ハ極メテつぐみニ類似シ秋期ハ主トシテ山野ニ自生スル樹木ノ果實ヲ食トシ冬期ニ至レハ動物質ト植物質トヲ混食シ夏期中ハ專ラ動物性食餌ノミヲ攝ル(つぐみハ夏期本邦ニ棲息セサルヲ以テ此期ノ比較ヲ缺ク)而シテ一箇年ヲ通シテ動物質及植物質ノ量ヲ比較スルニ

	動物質	植物質
あかはら	五六、%	四四、%

つぐみ　五九、　四一、

ニシテ兩者殆ント相一致ス而シテ動物性食餌中最モ主要ナルハ昆蟲ニシテ此點ニ於テモ兩者大差ナシ卽チ

	昆蟲	其他ノ動物
あかはら	九三、四%	六、六%
つぐみ	八六、	一四、

ニシテ兩者ノ食餌ニハ昆蟲ノ種類モ亦略、同樣ノモノナレトモ(第一表參照)之ヲ各目ニ配別スルトキハ其數ニ於テ稍、異ナルヲ知ルヘシ卽チ

	鞘翅目	鱗翅目	直翅目	有吻目	蜻蛉目	脈翅目	雙翅目	毛翅目	膜翅目
あかはら	三二%	一四	六	一	○	一	三四	○	一二
つぐみ	二○	四○	二、五	六	四	○、五	一三	九	五

此相違ハ蓋シあかはらハ夏期中本邦ニ棲息スルモつぐみハ此期間棲息セサルヲ以テ兩者ノ捕食スル昆蟲ノ種類ハ略、同樣ナルモ其量ノ相違スル所以ナリ今是等ノ相違カ農業上ニ如何ナル關係アルヤヲ考フルニ

	害蟲	益蟲	害益著シカラサルモノ
あかはら	九四%	五	一
つぐみ	七七、五	一○	一四、五

ニシテ右表ニ依リテ觀ルニあかはらハつぐみニ比シ更ニ有益ナリト謂フヲ得ヘシ

以上ノ統計ニ用キタルあかはらノ鳥數ハアル月ノモノハ極メテ少數ナルカ爲メ未タ精確ヲ期シ難シト雖少クトモあかはらハつぐみト同樣ノ性質ヲ有シ農業上ニ與フル效果決シテ之ニ劣ラサルヲ證スルニ足ルヘシ

(三)其他ノ鶫類

左記ノ鶫類ハ調査材料ノ都合ニヨリ或時期ヲ限リテ調査セルヲ以テ完全ヲ期シ難キモ前記ノ種類ト比較シテ食性上ノ大要ヲ知ルニ足ラン

まみじろ(眉白)ノ食性

學名 Turdus sibiricus davisoni (Hume)

本種ハ本邦內ノ山地ニテ夏月營巢繁殖シ冬期ハ本邦以南ノ地ニ渡リ行クモノト本邦內ニテ越冬スルモノトアリ主トシテ夏期ニ捕獲セルモノヽミヲ調査セルヲ以テ其食餌ハ殆ント動物性ノモノヽミニシテ植物質ハ僅ニ三「パーセント」ニ過キス其主食物ハ他種ノ鶫類ト等シク昆蟲類ニシテ其種類ハ別表ニ示スカ如ク大體ニ於テ他ノ鶫類ト異ナラサルモ此種ノ特ニ著シキ點ハ他種ニ比シ食量多キコトニシテ平均一胃中ノ昆蟲ノ數十三頭ニ達ス而シテ捕食セル昆蟲ヲ害益蟲ニ別チテ示セハ

害蟲 七七% 益蟲 一三% 害益著シカラサルモノ 一〇%

ニシテ本種モ亦農業上頗ル有益ナル鳥類タルヲ失ハス若シ尙ホ精細ナル調査ノ結果ニヨレハ本種ハ多食性ナルニヨリ恐ラク鶫類中最モ有益ナル種類ナルヘシ

くろつぐみ(黑鶫)ノ食性

學名　Turdus cardis *Temminck.*

本種ハ北海道ヨリ九州ニ至ル間ノ各地ニ多ク夏期ハ山間ニ營巢シテ繁殖シ九月下旬ヨリ十月ニ掛ケ「渡リ」ヲナシ九州以南ノ地支那海南島等ニ越冬ス調査ニ用キタルモノハ此「渡リ」ノ時期ノモノニシテ從テ植物性食物比較的多ク其割合ハ動物質六十「パーセント」植物質四十「パーセント」ナリ

是等食餌ノ詳細ノ性質ハ別表ニ見ルカ如クつぐみニ酷似スルモノニシテ昆蟲ト他動物トノ割合ハ昆蟲九十二「パーセント」他動物八「パーセント」ニシテ昆蟲ノ大部分ハ害蟲ニ屬シ益蟲ハ僅ニ其五「パーセント」ヲ占ムルニ過キス

とらつぐみ(虎鶫)ノ食性

學名　Turdus dauma aureues Hol.

本邦全土ニ普ク棲息スルモ其數アマリ多カラス夏期ハ山地ニアリテ生殖ス本種ハ體形少シク他ノ鶫類ト異ルカ如ク其習性モ亦稍〻異ナリ他種ヨリ一層棲地性ニシテ且ツ顯著ナル「渡リ」ヲナスコトナシ食性ノ調査ノ結果ハ材料少數ナリシモ尚ホ如上ノ習性ト一致スルヲ見ル卽チ「渡リ」ヲナサヽルカ爲メ他種ノ如ク特ニ食量ノ著シク減少スルノ時期ナク且ツ植物性食餌ノ多キモ年中平均ニ攝取シ從テ其量他種ニ比シ著シク多ク動物質四十一「パーセント」ニ對シ植物質五十九「パーセント」ヲ占ム而シテ動物質カ主トシテ昆蟲類ヨリ成ル(昆蟲九十一「パーセント」ニ對シ他ノ動物九「パーセント」)ハ他種ト同樣ナルモ其種類ハ特ニ棲地性ノモノ多シ植物ノ種類モ亦此傾向ヲ示シ他ノ鶫類ニ絕無ナリシみづごけ雜草葉根等ヲ含ム昆蟲ハ本調査

ニテハ凡テ害蟲ノミニシテ益蟲絶無ナリシモコレハ恐ラク偶然ノ結果ニシテ多數ノ材料ニ依ル時ハ他種ト等シク多少ノ益蟲ヲ發見スルコトアルヘシ

しろはら(白腹)ノ食性

學名 Turdus Pallidus Gmelin

本種ハ僅ニ五羽ヲ檢セルノミニシテ別ニ述フルノ價値ナシ別表ヲ參照スヘシ

鵐類各月採餌狀況一覽表

第一表 つぐみ

食餌＼月別	一月	二月	三月	四月	十一月	十二月	合計
調査セル鳥數	二五	五〇	三三	三一	八七	五五	二八一
食餌ヲ含有セサリシモノ	四	六	九	三	五二	二九	一〇三
植物性食餌ヲ含有セルモノ	一九	三一	一六	一〇	三五	二六	一三七
ざうむし		六		九			一五
こがれむし		一二	四				一六
みづすまし		四	一				五
げんごらう		二〇	六	四			三〇
はむし				二			二
こめつきむし				五			五
ごみむし	一	一二	五	一三			三一
はりがねむし				三			三
其他鞘翅目	一	一〇	二	二			一五
しやくとりむし		五	二五	一七			四八
にくわめいちゆう		六	一	一			八
よたうむし		一二	五				一八

れきりむし			一	一八			一九
其他鱗翅目幼蟲	二	六〇	四六	二一		二	一三一
蛾				二			二
ばつた	一	二		五			八
いなご			五				五
けら		二	二				四
こおいむし			三				三
かめむし				三四			三四
たいこむし		一一	四	一一			二六
其他脈翅目				一	二		三
はへ	一	二			一		四
あぶ			一				一
あぶ幼蟲		四	二	九			一五
きりうぢ	三	二		五			一〇
かがんぼ				五			五
みづばへ幼蟲		一六	五				二一
其他雙翅目幼蟲		八	一九				二七
いさごむし		三	二六	二二			五一
かはげら		三		一			四
あり	二七				一		二八
はち				四			四
わらぢむし		六					六
むかで			一三				一三
やすで		四	一	一			六
だに			一				一
くも	一						一
きせるがい			一				一
かたつむり		一	三	一			五

第二表　あかはら

食餌＼月別	一月	二月	三月	四月	五月	七月	十月	十一月	合計
調査セル鳥數	二	一二	三	三	一一	一五	一八	一六	八〇
食餌ヲ含有セサリシモノ			一	一	一	六	六	九	一六
植物性食餌ヲ含有セルモノ	一	八	一	二	一八	三	一一	七	三五
ざうむし		一		一	二〇	二			二四
ざうむし幼蟲				二	一				一
はりがねむし				一八	一				二〇
ごみむし				七	一	三			一四
こめつきむし				三	三				四
はむし				一	三				三
こがねむし					一	二			三
かみきりむし					一	一			二
がむし						一			一
きくすゐだまし					一一				一一
どろかつぎ					二				二
しやくとりむし				二		三			五
れきりむし				三	二	三	一		九
めいちゆう					三				三
其他鱗翅目幼蟲					九	一一			二〇
いごむし	六					四			一〇
ばつた				一		四			五
ごきぶり					一				一

とかげ	かへるみず	れ	合計
			一
			一
	一		一
		一	一
			一

第三表　まみじろ及くろつぐみ

食餌＼月別	五月	六月	七月	合計	十月	十一月	合計
調査セル鳥數	二八	一	三	三五	五〇	五	五五
食餌ヲ含有セサリシモノ					一六	二	一八
植物性食餌ヲ含有セルモノ					一八	三	二二
ざうむし	三三	二	一	三九			
ごみむし	四二	二	四	四四		二	二
はりがねむし	三			三			
はむし	二二			二二			
みちなしへ	一			一			
こめつきむし	四	三	二	九			
かみきり	二			二			
かめむし	二			二			
せんぶり	二		一	三	二		二
きりうぢ	一二		三	一五	一四		一四
かがんぼ	三二		九	一五	八		二三
其他雙翅目幼蟲	四七	三四	三	五	一		一
あり	三二			三一			
むし	一〇	九	一				
わらぢむし							
かはべび	二九	二九					
やすで	二		一		一		一
むかで	三				三		三
くもじ	二四	一	一	二〇	二		二
なめくじ	二	一					
かたつむり	一	一					

こがれむし	一七		一							
きくするもどき	一七		一	一七	一					
れきりむし	一		三	三	一					
にくわめいちゆう	一			一						
よたうむし	二			二		一二	一			
しやくとりむし	三			三		九	一			
ばつた	一			一		三				
かまどうま	一			一						
うんか	二		一	二						
めむし	一			一		一				
かりあげむし	一			一						
とんぼ	三			三						
いさごむし		三七		三七						
うすばかげろふ			一	一						
かがんぼ		一	二	三九	一					
きりぎりす	三五			三五	一	一				
たればへ幼蟲	三			三						
其他雙翅目幼蟲	七三			七三						
あり	二五			二五	七					
はち	三			三						
はばち	三			三						
で	七	一		八						
やすで	一三			一三						
わらぢむし	二二			二二						
かたつむり	一			一						
みゝず										

第四表　とらつぐみ及しろはら

食餌＼月別	一月	五月	十月	十一月	十二月	合計	一月	二月	三月	合計
調査セル鳥數	一	六	一六	八	一	三二	一	二	二	五
食餌ヲ含有セサリシモノ		四	四			四				
植物性食餌ヲ含有セルモノ			一〇	五	一	二〇	一	二	二	五
げんごらう	一					一				
はりがねむし		二	二	二		六				
ざうむし			二五			二五				
ざうむし幼蟲			四八			四八				
くはがたむし				三		三				
きくすゐだまし		二		二	四	四				
れきりむし				二		二				
かめむし			一	三		四				
きりうぢ	九			四	一九	三二				
みづばへ幼蟲				二		二				
むかで			一			一			二	二
やすで				三		三			一	一
もくだに									一	一
みゝず		一				一				
かへる										

胃內容ノ調査

昆蟲ノ名稱ハ初出ノ際ノミ和名學名ヲ併記シ其他ハ學名ヲ省略ス

植物中括孤內ノ數字ハ標本番號ニシテ今後植物ノ調査行届キ種名判然セル際對照ニ便ナラシメン爲ナリ

表中無印ハ動物性食餌ニシテ×印ハ植物性食餌ナリトス

第一　つぐみ　（總數二百八十一羽）

番號	捕獲月日	胃內容
一	I 一	×ねず(zuniperus rigida)種實二
二	同	×ねず種實二
三	二	×ねず種實一、へくそかづら(Paederia tomentosa Bl)種實二
四	同	鱗翅目幼蟲(種名不詳)一
五	三	×へくそかづら種實二一、不明種實(一)二
六	四	同
七	同	えだしやくとり(Hemirophlia atrilinea But)一、×へくそかづら種實二二
八	六	蠅(家蠅科)(種名不詳)一、×不明種實(二)三八
九	六	みゝず一、×ねず種皮
一〇	三	とのさまばった(Pachytylus danicus L)一、きりうち二、×ねず種實五
一一	一四	×ねず種實三
一二	六	ねず種實三
一三	一六	
一四	同	×さるとりいばら(Smilax china L)種實二
一五	一九	あり(種名不詳)頭二七、きりうち二、くも一、×ねず種實二
一六	二〇	×種實六
一七	二二	歩行蟲科甲蟲(種名不詳)翅鞘一、×ねず種實二
一八	二四	×ねず種實九
一九	同	けむし碎片一、甲蟲(種名不詳)肢四
二〇	二五	×ねず種實四
二一	同	みゝず二、×ねず種實三
二二	同	×ねず種實二
二三	三〇	きりうち一、×ねず種實一
二四	同	
二五	同	
二六	II 二	甲蟲幼蟲頭部九、×へくそかづら種實九
二七	同	×へくそかづら種實七
二八	三	×へくそかづら種實一三

二九　同　にくわめいちゆう（Chilo simplex Butl）三、象鼻蟲科（Philobiussp）六、きりうぢ一、はく（家蠅科）二、歩行蟲甲蟲碎片

三〇　四　×れす種實一

三一　五　×不明種實二六

三二　同　×のいばら（Rosa multiflora legtima Reg）種實一〇七

三三　六　きりうぢ一、にかめいちゆう二

三四　七　×不明種實（二）二

三五　同　×のいばら種實六

三六　八　×しほで（Smilax herbacea nipponica Mex）種實六、×さるとりいばら種實一、×そば（Tagopyrum esculentum Moench）種實一

三七　九　かたつむり殻一、よたうむし一二

三八　一〇　みゝず二、×れす種實三

三九　同　みゝず一、×れす種實一

四〇　同　×れす種實一

四一　一三　わらじむし二、×不明種實（二）七

四二　同　×へくそかづら種實六

四三　同　鱗翅目幼蟲（種名不詳）四七

四四　一四

四五　一六　×れす種實一

四六　一七　さなへとんぼ（Gomphus melampus Selys）蛹假面一、しやくとり二、ひしばった（Tettix japonicus）肢二

四七　二〇　しやくとり二、×れす種實一

四八　同　×あおつゞらふぢ（Coculus thunbergii）種實四

四九　同　金龜子科（Aphodius nigrotessatus）頭一二、ばつた大腿（種名不詳）一

五〇　三　みづはへ幼蟲（種名不詳）一、鱗翅目幼蟲一、歩行蟲科甲蟲頭部三、ひめみづすまし（Gyrinus japonicus）一

五一　同　みづはへ（Stratomyia barca）幼蟲六

五二　三　さなへとんぼ蛹一〇、しやくとり一

五三　同　みづはへ幼蟲（種名不詳）一、×不明植物實

五四　同　かはげら（perla sp）翅六、×不明植物實不明種實（三）一

五五　同

五六　同　みづはへ幼蟲（種名不詳）一、げんごろうノ一種（龍蟲科）一七、やすで一

五七　同　×へくそかづら種實七

五八　同　ひめみづすまし二、みづはへ幼蟲（種名不詳）一、鱗翅目幼蟲三、歩行蟲科甲蟲三

五九　同　みづばへ幼蟲（種名不詳）三

六〇　同　×不明種實（三）一一

六一　同　やすで三

六二　同　わらじむし四

六三　二四　わらじむし三

六四　同

六五　二六　毛翅目幼蟲三、×不明種實（四）八

六六　同　げら（Gryllotalpa africana）一、いもむし（種名不詳）二

六七　同　うぢ（家蠅科）八、×粃（稻）（Oryza sativa）

六八　二七　×粃二一

六九　同　×麥一九

七〇　同　×不明種實（三）四

七一　同　鱗翅目幼蟲五、×さるとりいばら種實九

七二　二六　×不明種實（三）二

七三　同　にかめいちゆう一、みづばへ幼蟲三、こしまげんごろ

う(Hydaticus grammicus)三
一 鱗翅目幼蟲四二、こしまげんごろう一、毛翅目幼蟲一
同 ×不明種實(八 二三
二 同 ×のいばら種實一八
三 同 みづすまし(Gyrinus curtus)五、×雜草種子二
同 毛翅目幼蟲一二、かたつむり一、雙翅目幼蟲一、みゝず一、しほからとんぼ(Ortherum japonicus)蛹一
四 ×ひひらぎ(Osmanrhus aquifolius)種實六
同 あぶ(種名不詳)幼蟲一、毛翅目幼蟲二、こしまげんごろう一、小甲蟲(龍蟲科)二、みゝず二
六 にかめいちゆう一、×不明種實(五)二
九 同 鱗翅目繭一、よたうむし二、×へくそかづら種實八
一〇 鱗翅目蛹一、甲蟲碎片、×そば種實一六、さるとりいばら種實八
一二 ×不明種實(六)三六、×へくそかづら種實一
一三 同 ×さるとりいばら種實一三、不明種實(六)九
一三 ごみむし(Anisodactyius signatus)一、けら一、毛翅目幼蟲一、よたうむし三、あぶ幼蟲一
一五 不明消化動物質
一六 同 ×れす種實一
一七 同 けら一、ねきりむし一、みづすまし一種(種名不詳)一
かたつむり殻
一七 こやんまとんぼ(Epophthalmia amphigena)蛹一、とんぼノ一種(蜻蛉亞科)蛹二、×あおつづらふぢ種實三
一八 こおいむし(Appasus japonicus)二
いなご(Oxya velox)卵塊五、こおいむし一、ごみむし一、雙翅目幼蟲一、雙翅目蛹一七、毛翅目幼蟲一

二六 同 毛翅目幼蟲四、鱗翅目幼蟲碎片、甲蟲碎片、とびいろこがね(Serica japonica)二、けんごろうノ一種(Hydaticus sp)三、かたつむり殻碎片、かへる骨
二九 同 きせる貝一、×籾六
三〇 同 同
三一 同 ×のいばら種實三三、×不明種實(八)三
三三 同 毛翅目幼蟲三、歩行蟲科甲蟲翅鞘一、×籾三
三四 同 しやくとりむし一八、歩行蟲科甲蟲二、毛翅目幼蟲二
三五 ×籾一
三六 同 同
三七 同 同
三八 同 しやくとりむし七、鱗翅目幼蟲碎片一、金龜子科(Aphodius nigrotessatus)翅鞘二、むかで一種(Geophilasp) 一三、やすで碎片、×のいばら種實一五
三九 一 あぶ幼蟲四、きりうじ五、とんぼ一種(蜻蛉亞科)蛹一
四〇 二 同 鱗翅目幼蟲七、毛翅目幼蟲二
四一 同 同
四二 四 しやくとり四、蛾一種(Microlepidoptera)二、ぞうむし(種名不詳)三、甲蟲碎片、ごみむし一種(Poecilus procephelus)二
四四 六 しやくとりむし一、蝗蟲大腿二、×大豆胃ニ充滿
四五 同 ねきりむし三、ひしばった(Tettix japonicus) 一、金花蟲科一種翅鞘一、叩頭蟲科一種一、だに(種名不詳) 一、かたつむり殻、×籾一

二六　七　がばげら翅一、毛翅目幼蟲一、こしまげんごろう二、×さるとりいばら種實二

二七　八　れきりむし二、かゝんぼ(種名不詳)翅二、ひしばった二、象鼻蟲科一種一、金花蟲科一種翅鞘五、歩行蟲科一種翅鞘四、しやくとり一、くも胸節一

二八　同　鱗翅目幼蟲四、虻科幼蟲一、かゝんぼ(種名不詳)一、象鼻蟲科一種一、とんぼ蛹(蜻蛉亞科)三、毛翅目幼蟲三

二九　一〇　あぶ幼蟲二、みゝず一

二一〇　同　毛翅目幼蟲一一、象鼻蟲科(種名不詳)一

二一一　同　虻科幼蟲一、×さるとりいばら種實一

二一二　二　ごもくむし一種(Harpalus ruficollis)翅鞘一

二一三　三　×不明種實二〇

二一四　同　にくわめいちゆう一、しやくとりむし一、龍蟲科甲蟲二みゝず三

二一六　同　とんぼ蛹(蜻蛉亞科)一、鱗翅目幼蟲一、虻科幼蟲(種名不詳)一、龍蟲科甲蟲二

二一七　一五　ひめきべりあおごみむし(Chleanius circumdactus)三

はなあぶ(Eristaalis tenax)一、鱗翅目幼蟲一、おほやまとんぼ(Epophthalmia elegans)蛹、象鼻蟲二

二一八　一六　膜翅目(種名不詳)翅四、甲蟲碎片、×さるとりいばら種實五

二一九　一七　れきりむし一一

二二〇　一八　鱗翅目幼蟲四

二二一　一九　とんぼ蛹(蜻蛉亞科)五、×粃二

二二二　同　歩行蟲科甲蟲翅鞘七、×不明種實(三)二

二二三　二〇　はりがねむし二、歩行蟲科甲蟲翅鞘、毛翅目幼蟲

二二四　二一　おとしぶみノ類(Apoderus roelofsi)一、はりがねむし一、椿象(種名不詳)三四、歩行蟲科甲蟲翅鞘一、脈翅目幼蟲一

二二五　二二　鱗翅目幼蟲四、かゝんぼ翅(種名不詳)一、歩行蟲科甲蟲翅鞘一

二二六　二三　しやくとりむし一〇、×さるとりいばら種實一

二二七　同　とかげ(Eumeces quinquelineatus)一、毛翅目幼蟲四、蝗蟲(種名不詳)大腮二、甲蟲(種名不詳)翅鞘一、くも二、やすで破片

二二八　二三　こめつきむし(Melanotus legatus)四

二二九　二七　昆蟲碎片

五月乃至十月ハ本邦ニ棲息セス

×不明種實(二四)七

二三〇 XI　二四　同　×同上(四二)三

二三一　同　×同上(三四)一

二三二　同　同

二三三　同　×同上(四二)二

二三四　同　×同上(四五)三

二三五　二八　一五三ハ胃內容皆無

二三六　二九　×同上(三六)九、×(一八)二

二三七　一五五……　一五八ハ胃內容皆無

二三八　一五九　七　×同上(三四)六

二三九　一六〇　同　×同上(一八)七、×(三四)二

二四〇　一六一……　一六二ハ胃內容皆無

二四一　一六三　八　×同上(二三)八

二四二　一六四　同　×同上(三三)一

二四三　一六五　同

一六六……一七六ゝ胃内容皆無
一七　八　×同上(四六)四〇
一七八……一七九ゝ胃内容皆無
一八〇　二　×同上(三七)三、×(四二)一四
一八一　同
一八二　同　×同上(一八)一六
一八三　同　×同上(二八)二
一八四　三　×同上(三六)七
一八五　同
一八六　同　×同上(二二)二
一八七　同
一八八　三　×同上(一〇)一
一八九　同　×同上(二二)四、×(二三)二、×(二七)二
一九〇　同　×同上(四四)六
一九一　同　×同上(二三)八
一九二……一九三ゝ胃内容皆無
一九四　一四　×同上(四二)一
一九五……一九八ゝ胃内容皆無
一九九　同　×同上(三四)七
二〇〇　五
二〇一　同　×同上(三九)四
二〇二　同　×同上(二三)一
二〇三　九　×同上(二三)三
二〇四　三　×同上(一八)一
二〇五　同　×同上(三七)一
二〇六　三
二〇七　同　×同上(二二)二七、×(四〇)三〇
二〇八　同　×同上(二三)二
二〇九　同　×同上(二三)三
二一〇　同
二一一　二四　×同上(二三)一、×(四一)一
二一二　同　×同上(三六)一
二一三……二一四ゝ胃内容皆無
二一五　二四　×同上(一八)一〇
二一六……二二二ゝ胃内容皆無
二二三　二六　×同上(四三)七
二二四　二七
二二五　同　×同上(二三)二、×(三八)三
二二六　三〇　×同上(二三)六
二二七　一　XII
二二八　同　×同上(三三)一三
二二九　同　×同上(二〇)四
二三〇……二三一ゝ胃内容皆無
二三二　二　×同上(三三)七
二三三……二三五ゝ胃内容皆無
二三六　三　よたうむし一
二三七　同
二三八　四　鱗翅目幼蟲一、×不明種實(二〇)三
二三九……二四〇ゝ胃内容皆無
二四一　五　×不明種實(三三)一、×(三四)一、×(二〇)一、×(三六)一二
二四二……二四三ゝ胃内容皆無
二四四　一六　×同上(二三)一六、×(四四)三
二四五　同　×同上(五九)一六、×(四四)一三
二四六　一七
二四七　同　×同上(一八)一四
二四八　同　×同上(五五)三
二四九　八　×同上(四六)九

一五〇　同　×同上(五五)四
一五一……　二五二ハ胃内容皆無
一五三　一八　×同上(一五)三、×(五三)三
一五四……　二五五ハ胃内容皆無
一五六　二〇　×同上(三三)九
一五七　同
一五八　三　×同上(一八)二
一五九　同
一六〇　同　×同上(三四)四
一六一　同　くも一、のれすみ一、×不明種實(四七)五二
一六二……　二六四ハ胃内容皆無
一六五　三三　×同上(三四)一
一六六　同
一六七　同　×同上(一八)八
一六八……　二七一ハ胃内容皆無
一七三　二五　×同上(五八)三
一七三……　二七四ハ胃内容皆無
一七五　二五　×同上(五一)七
一七六　二七　×同上(一八)二七
一七七　二八　×同上(一八)四
一七八　同　鱗翅目幼蟲一、×同上(三三)二
一七九　二九
二八〇　三〇　×同上(二二)七、×(五〇)三〇
二八二　三一　×同上(四〇)八四

第二　あかはら及鶫

一I　一六　なめくじ一、つちいなご(Acridium consanguineus)翅六、×ひゝらぎ(Osmanthus aquisofius)種實一三
二四　つちいなご翅六

三II　一　×不明種實(九)二三
四　五　かはゑび二九、わらじむし九
五　八　×ひゝらぎ種實一
六　同　×不明種實(一〇)一〇
七　一〇　×ひゝらぎ種實一
八　同　×ひゝらぎ種實一二
九　一六　×くも一、×不明種實(一六)一一六
一〇　一八　かたつむり一、なめくじ一
一二　三三　雙翅目幼蟲三四
一三　二五　×不明種實(一二)一六
一三　二六　象鼻蟲科甲蟲(種名不詳)一
一四　二八　×へくそがづら種實二
一五III　一七　きりうぢ三
一六　二八
一七　三二　×不明種實(一三)一三
一八IV　一九　はりがねむし一、ざうむし(種名不詳)一、步行蟲科甲蟲翅鞘一、金花蟲科甲蟲翅鞘二、しやくとりむし二
かゞんぼ翅四
一九　一九　ねきりむし三、ひしばつた脚二、かゞんぼゞ二、步行蟲科甲蟲翅鞘四、やすで碎片
二〇　二九　きりうぢ九、はりがねむし一、步行蟲科甲蟲碎片、わらじむし一
二一V　二六　かゞんぼ三、ざうむし(種名不詳)腹節二、步行蟲科甲蟲頭部一、ひめじようかい(Telephorus japonicus)頭部一
三　同　かゞんぼ三、ひめじようかい二、鱗翅目幼蟲一、ざうむし(種名不詳)一、あり(種名不詳)頭二二
二三　同　鱗翅目幼蟲三、かゞんぼ七、こもくむし一種(Harpalus sp.)翅鞘一、どろかつき(Hopatrum japanum)一

二四 一七 はりがねむし一一、ねきりむし二、ひらたこみむし
(Ancomenus magnus) 一
二五 同 象鼻蟲科(Sceptieus tusularis)七、こみむし一種(Chle-
anius sp)翅鞘一、叩頭蟲科甲蟲胸節一
二六 同 はりがねむし二、ひめじようかい頭部一、ほしはむし
(Phytodecta gracilicornis) 一、こくろがいた(Cydn-
us nigrita) 一、ざうむし幼蟲一、かゞんぼ四、あり
(種名不詳)三、鱗翅目幼蟲一
二七 同 ひめじようかい三、はりがねむし一、おほどろかつぎ
(Hopatrum sectieollis) 胸節一、かゞんぼ一、こき
ぶり(種名不詳)一、鱗翅目幼蟲七
二八 同 めいちゆう一、あり(種名不詳)五
二九 同 ざうむし(種名不詳)叻九、はりがねむし四、歩行蟲科
甲蟲頭部二、かみきり一種(Leptura sp)腹節一、鱗
翅目幼蟲二
三〇 同 めいちゆう二、雙翅目幼蟲及蛹五、金花蟲科甲蟲一、
象鼻蟲科甲蟲一、くも二
三一 同 じようかいぼん(Telephorus luteipennis)五、金花蟲科
甲蟲翅鞘二、歩行蟲科甲蟲頭部一、かゞんぼ肢五、
あり(種名不詳)一、くも一
三二 VII 八 こがね一種(Euchlora albopilosa)一
三三 一四 せんぶり(Sialis japonicus)二、かゞんぼ五、椿象一種
腹節一、蝗蟲科大腿四
三四 同 鱗翅目幼蟲一、×桑實二二
三五 一六 うしむし一種(Calosoma sp)頭部一、(Geoplilila sp)二
三六 一七 しらがたろう一、象鼻蟲科甲蟲翅鞘一、あり(種名不詳)
×桑實二
三七 同 しらがたろう一
三八 同 こめつきむし一、やすで碎片、×桑實二四

二九 一八 天牛科(Praonetha virgata)一、象鼻蟲科甲蟲一、(Geo-
phila)一、×桑實一四
四〇 同 こめつきむし頭部二、鱗翅目幼蟲一
四一 二六 かがんぼ七、×やまかうばひ(Linderaglauca)實五
四二 同 がむし一種(種名不詳)一、かめむし翅一、×やまかう
ばひ實一〇
四三 二九 鱗翅目幼蟲一
四四 X 一八
四五 一九 ×不明種實(一一〇)二〇
四六 同
四七 二〇 ×不明種實(二一〇)一一
四八 同 ×不明種實(二一〇)一七
四九 …… 五〇ヶ胃內容皆無
五〇 二五 れきりむし三
五一 同 ×不明種實(二一〇)一三
五二 二七 ×不明種實(一一八)八
五三 同 ×不明種實(一一八)八
五四 二八 ×不明種實(一一八)二
五五 三〇 ×同上七
五六 同 ×同上八
五七 同 ×同上八
五八 同 ×同上三
五九 六〇 XI 二 ×不明種實(三一)二
六〇 …… 六五ヶ胃內容皆無
六一 七 ×不明種實(一一八)一九
六二 同 ×同上五
六三 同 ×同上八

六九　九　×不明種實(二九)一八
七〇……　七一ハ胃内容皆無
七二　一二　×不明種實(一八)九
七三　一三　×同上二二
七四　同　×同上七
七五……　七七ハ胃内容皆無

鷂

七八 VII　一八　かがんぼ翅四、しやくとり一
七九　同　ひしばつた肢二
八〇　同　しやくとりむし二
八一　三一　いなご大腮四、雙翅目蛹八、鱗翅目幼蟲三、れきりむし二、きいろすゞめ(Theretra nessus)幼蟲一、ごみむし一
八二　同　きいろすゞめ幼蟲二、れきりむし一、ひしばつた三、金龜子科甲蟲頭部一、歩行蟲科甲蟲頭部一

第三　まみじろ

一 V　一六　かゞんぼ翅(種名不詳)四、あり頭(種名不詳)一、歩行蟲科甲蟲胸節一、象鼻蟲科甲蟲翅鞘一
二　同　ひしばつた肢一、ひらたごみむし(Ancomenus magnus)翅鞘一、はりがれむし一、象鼻蟲科甲蟲吻一、金花蟲科翅鞘四、鱗翅目幼蟲二、かゞんぼ翅(種名不詳)二
三　同　ひしばつた一、象鼻蟲科甲蟲吻一、ごもくむし一種(Harpalus rugiolis)翅鞘二、鱗翅目幼蟲一、かゞんぼ翅(種名不詳)四
四　同　象鼻蟲科(Chlesnus sp)吻二、ごもくむし一種(Harpalus rugicolus)翅鞘四、ひしばつた一、歩行蟲科頭部(Corabus sp)一、こにははんめう(Cicindera japonensis)一、金花蟲科甲蟲一、鱗翅目幼蟲一
五　同　しりあげむし一種(Papnorpa pryeri)一、はりがれむし一　金花蟲科翅鞘(Chryptocephalus japonus)一、はばち幼蟲一、かゞんぼ(種名不詳)翅一、歩行蟲科甲蟲頭部二、むかで類(Geophilus)三
六　同　ごぼうぞうむし(Larius latissinus)一、はばち幼蟲一　浮塵子一種(Cercopidae)二、あり(種名不詳)頭部三
七　同　雙翅目幼蟲五七、かゞんぼ(種名不詳)翅一
八　同　ごもくむし一種翅鞘三、れきりむし一、にかめいちゆう一、鱗翅目幼蟲一、かゞんぼ翅三一、きりうじ一
九　同　Telephorur slutei pennis 一三　かゞんぼ翅二、はむし(種名不詳)翅鞘五
一〇　同　ざうむし(種名不詳)四、歩行蟲科甲蟲二、やすで六
一一　同　よたうむし一、はりがれむし一、はむし(種名不詳)翅鞘一八、うしむし頭部一、歩行蟲科甲蟲頭部二、雙翅目幼蟲七、やすで三
一二　同　あり(種名不詳)頭部一二、ひめこめつき(Silesis musculus)一、こめつき(Melanotus lsgatus)三、歩行蟲科甲蟲頭部二
一三　一七　きりうぢ二一、歩行蟲科甲蟲頭部一、ざうむし(種名不詳)翅鞘八、鱗翅目幼蟲一
一四　同　ごみむし一種(Poecilus procepholus)頭部及胸節一、かめむし(種名不詳)一、ざうむし(種名不詳)二、鱗翅目幼蟲二
一五　二〇　はむし(種名不詳)翅鞘三、歩行蟲科甲蟲頭部一、やすで碎片
一六　同　きりうぢ二、たればい幼蟲三、歩行蟲科甲蟲頭部二
一七　同　かゞんぼ(種名不詳)二、はばち一　Telephorus japoni-

cus 一

一八 三 かゞんぼ(種名不詳)五、ざうむし(種名不詳)一、くも一

一九 同雙翅目幼蟲六、ざうむし(種名不詳)三、步行蟲科甲蟲頭部一、やすで一、むかで一

二〇 二四 ざうむし(種名不詳)胸節四、步行蟲科甲蟲頭部一、かゞんぼ翅五、ざうむし幼蟲一

二一 二五 はぐろとんぼ(Calopteryx atrata)一、かゞんぼ蛹一、步行蟲科甲蟲頭部二、わらじむし二二

二二 三 同かゞんぼ三、ざうむし(種名不詳)三、步行蟲科甲蟲頭部四

二三 同かゞんぼ蛹三、きりうぢ四、やすで碎片 かへる(骨)

二四 二七 かゞんぼ一、鱗翅目幼蟲一、步行蟲科甲蟲頭部五、やすで碎片(Geophilus)一

二五 二九 ひらたごみむし頭前胸六、天牛科甲蟲頭部一、鱗翅目幼蟲二

二六 三〇 よたうむし一、ざうむし(種名不詳)吻五、はむし(種名不詳)翅鞘一、步行蟲科甲蟲頭部二、あり(種名不詳)頭部三、膜翅目一種一

二七 三二 天牛科(Prasnetha virgata)一、はむし(種名不詳)翅鞘二、ざうむし(種名不詳)吻二、步行蟲科甲蟲頭部一 とうすみとんぼ(種名不詳)翅四、雙翅目幼蟲二

二八 同天蛾幼蟲一、あり(種名不詳)頭部七、きりうぢ三、かゞんぼ翅及肢二、くも一

二九 VI 一 ひめこめつき(Silesis musculus)二、こめつきむし(Melantus legatus)胸節一、步行蟲科甲蟲頭部二、ざうむし(種名不詳)吻二、かがんぼ二、毛翅目幼蟲(巢)三七、Geophilus 一

三〇 VII 一 しやくとりむし一、こめつきむし頭部二、ざうむし

三一 一八 (Canoicus sp.)一 かがんぼ(種名不詳)二、しやくとりむし二、膜翅目昆蟲(種名不詳)一、ざうむし(種名不詳)吻三、金龜子科甲蟲翅鞘一、うすばかげろう(Myrmeleon micans)翅二

第四 くろつぐみ

一 X 一 ばつた(種名不詳)肢二

二 七 鱗翅目幼蟲

三 八 ばつた(種名不詳)大腿二、ひらたごみむし一、×種實(二二)五

四 同 しやくとりむし二

五 一三 ×あをつゞらふぢ種實二

六 一四 しやくとりむし三、×種實(二四)一五

七 同 ×あをつゞらふぢ種實五

八 同 ×種實(二四)五

九 一五 同 ×種實(二四)五

一〇 同 同

一一 同 よたうむし一、×種實(二二)二四

一二 一三 同 よたうむし一、×種實(二二)二四

一三 一六 しやくとりむし一、よたうむし一六

一四 一七 同 同

一五 同 同

一六 同 ×あをつゞらふぢ一

一七 同 ×種實(二一〇)一四

一八 同 よたうむし三

一九 同 かめむし(種名不詳)腹部一

二〇 同 くろあり(Lasius fuliginosus)三、×種實(一八)二三

二二	同	くろあり頭部三
二三	同	
二四	一九	ばつた(種名不詳)大腮二、かへる骨
二五	同	
二六	同	×あをつゝらふぢ一
二七	同	
二八	同	×種實(一九)八
二九	同	
三〇	同	かまどうま(Diestrammena japonicae)一
三一	同	×種實(二五)二、同上(二〇)二
三二	二〇	×種實(一八)一二
三三	同	くろあり頭部二
三四	同	
三五	同	みゝず一
三六	二一	×種實(一八)一
三七	同	
三八	同	雙翅目幼蟲一、歩行蟲科甲蟲碎片
三九	……	四〇ハ胃内容皆無
四一	同	やすで一
四二	二二	しやくとりむし二
四三	二三	×種實(二三)一六
四四	同	×種實(一八)一一
四五	二五	みゝず一
四六	同	きりうぢ一、×種實(二二)七一
四七	同	
四八	二六	
四九	二七	くろあり一
五〇	二九	
五一	XI 一八	鱗翅目幼蟲一、×種實(二二)五
五二	同	×種實(一九)多數
五三	一九	よたうむし一、×種實(二八)二
五四	同	
五五	同	

第五　とらつぐみ

一	V	みゝず二、×みづごけ、×ひのき葉、×雜草類
二		はりがれむし二、だに一、×すぎごけ、×ひのき葉、×雜草葉根
三		ひめじようがい一、×ひのき葉、×みづごけ、×草根
四		みゝず四
五		×ひのき葉、×草根
六		一乃至六凡テ胃中ニ多少ノ土砂ヲ含ム
七	X 九	
八	一〇	象鼻蟲科幼蟲二五、かめむし(種名不詳)腹節一
九	一七	×種實(三四)一三
一〇	二〇	×種實(四五)四、×種實(二〇)九
一一	二一	×種實(二〇)一四
一二	同	×種實(二〇)四
一三	二二	
一四	二四	
一五	同	×種實(六一)二
一六	二五	×種實(二二)二〇、×種實(一九)二七
一七	二六	象鼻蟲科幼蟲四、×種實(三四)二
一八	二七	
一九	同	はりがれむし二、×種實(二〇)二
二〇	同	×ゑびづる種實五
二一	三〇	象鼻蟲科幼蟲四四、Geophilus 一

×種實(二三八)三
一みづあぶ幼蟲二、かめむし(種名不詳)後翅一、きりうぢ四
同 ×種實(二三)三二
同 鍬形蟲科甲蟲大腮四、×種實(二二)一〇
×種實(二三)一二
×種實(二三)一四
れきりむし二、はりがねむし二、やすで一、けんかめむし(Acanthosoma scutellata)頭胸部二
×種實(二二)四五

鍬形蟲科甲蟲大腮一、やすで二
きりうぢ一九、×種實(二二)無數
きりうぢ九、龍蟲科幼蟲一

第六　しろはら

×れす種實一
同 ×さるとりいばら種實五
×さるとりいばら種實四
やすで碎片、くも一、Geophilus二、×れす種實四
×さるとりいばら種實三、×のいばら種實二

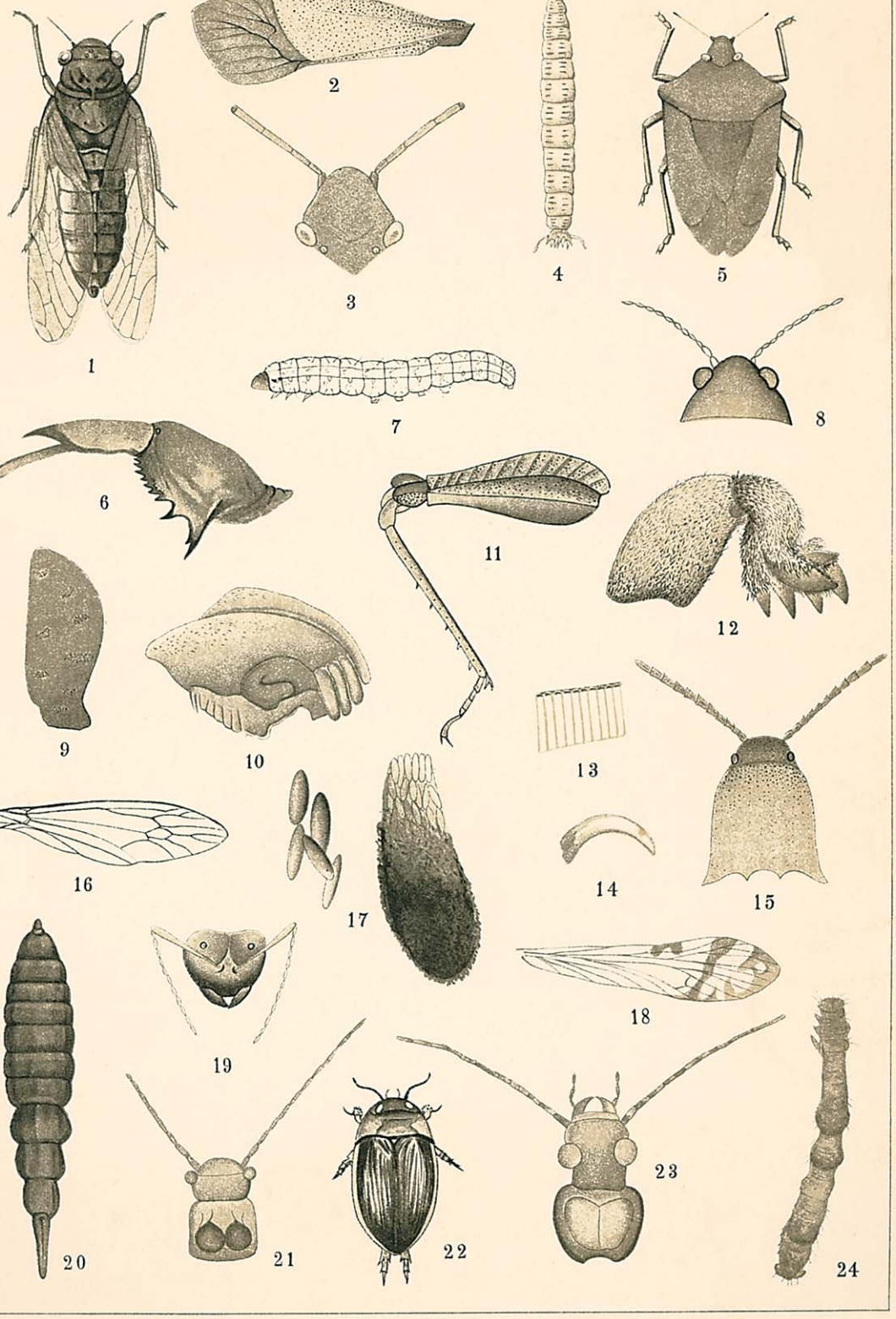
農事試驗場特別報告第二十九號 終

鴟類及鶫類ノ主ナル食餌昆蟲

鵙類及鶫類ノ主ナル食餌昆蟲

（主トシテ胃中ニ含マルヽ狀態ヲ示ス）

1. はるぜみ (Terpnosia pryeri)
2. あをくさがめ (Nezara antennata) ノ翅
3. あをくさがめノ頭部
4. きりうぢかがんぼ (Tipula parva) ノ幼蟲
5. あをくさがめ
6. はるぜみ蛹前肢
7. にくわめいちゅう (Chilo simplex)
8. ひしばった (Tettix japonicus) ノ頭部
9. はなむぐり (Glycyphana pilifera) ノ翅鞘
10. はれながいなご (Oxya verox) ノ大腮
11. ひしばったノ後肢
12. はら (Gryllotalpa africana) ノ前肢
13. 野鼠 (Microtus montebelli) ノ門齒
14. 同臼齒
15. こめつきむし (Melanotus legatus) ノ頭部
16. きりうぢかがんぼノ前翅
17. ばれなかいなごノ卵塊
18. うすもんしりあげむし (Panorpa sinanoensis) ノ前翅
19. くろあり (Lasius fuliginosa) ノ頭部
20. みづばへ (Stratomyia barca) ノ幼蟲
21. きくすねもどき (Telephorus luteipennis) ノ頭部
22. こしまげんごらう (Hydacticus grammicus)
23. ひらたごみむし (Ancomenus magnus) ノ頭部
24. えだしやくとり (Hemirophila atrilineata) ノ幼蟲


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24

大正二年三月十三日印刷
大正二年三月十八日發行

農商務省農事試驗場
（東京西ヶ原）

東京市京橋區築地三丁目十一番地
印刷者　野村宗十郎

東京市京橋區築地二丁目十七番地
印刷所　株式會社東京築地活版製造所

東京市赤坂區溜池町一、二番地
賣捌所　大日本農會

D
1-1
511